

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 IV	3	前期	選択	いいえ	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		○		○	

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ソーシャルワーカーの対面にある人々は自分が選ぶものではない。どのような人であっても関わり続ける者であるから、受容し、クライアントに寄り添いその人の問題を整理することが望まれる。よって、演習では短い事例を読み解き、事例の行間にねむる人々の思いを理解出来るよう、感受性高く理解させることに心掛けた。7回を担当し困難ケースの事例を読み解き、学生らの価値観や偏見を出させたことが達成度の評価が高かったことに繋がったものと判断する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「自分が学ぼうとしている専門分野」に対する理解ができたことへの評価が3.4以上であり成果はあったと評価する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自由記述に「現場での経験を聞けて非常に理解が深まった」とあった。クライアントに寄り添い事例を読み解くように指示していたことをりかいしてくれたものだと思う。また、到達度評価において「わりにそう思う」が半数以上であり到達できたと判断する。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	演習であるため数は少数であるが、学習量の評価において事前準備と復習をした者が半数以上いたことは好ましい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	事例を検討することに不慣れでありこちらから解説してしまうことが多くなり反省する。今後は学生の主体性を引き出すように取り組む。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会調査の基礎	3	前期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士国家試験の受験科目であるため多くの学生が参加していた。 ただし意欲の点からすると苦手な数学のイメージから、及び腰の学生も多く見られた。統計的技法の習得に十分な数学的技能を備えていない者も多く、「統計の意味を理解する」ことに重点を置いた。数学Ⅰにおけるデータの分析の学習状況は高校によって差が大きいと考えられる。統計の授業のオリエンテーションにおいても、計算が苦手でも必ず社会調査を理解することができるという授業のコンセプトを説明し、学生の動機付けに配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点77.0点。秀15名(20.3%)優15名(20.3%)良20名(27.0%)可19名(25.7%)不可5名(6.8%)であった。 前年度に比べて優が減り、良が増えており、二極化の傾向は続いていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	資格試験に対応した科目であり、一定の基礎的な学習の上に展開する3年次科目として、内容的に妥当性があると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法としては(1)社会調査のイメージ作り(2)意義の理解(3)統計的手法の理解と活用といった順番で進めた。 (1)(2)については国家試験の過去問と照らしても学生も理解しやすいが、(3)から突然難易度が上がると感じる者も多かったようだ。テキストだけでなく、レジュメやスライド資料を活用しながら、できるだけ「なぜその統計手法が必要なのか」が理解しやすい授業を心がけた。授業中にはある程度理解できても、その定着が困難な場合もあり、繰り返し学習もこれまで以上に取り入れる必要があると感じている。 前年度と比較して配布プリントを解きなおした上でなお理解できない点を質問する学生が一定数いた。その質問内容については授業で少しだけだが触れるようにして、4年次の自己学習とのつながりを持てるよう心がけた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習集団全体としては一定の目標が達成できたと思う。ただし、下位層に関しては授業内容についてこられない者が一定数存在する。これに対しては補習的教材の準備などで対応してはいるが、まだ十分な効果を上げていない。より積極的にどうわからないのかに踏み込んだ授業改善が必要だと考える。 今回は学習内容が特定の出題形式と結びついた形で習得できているのかを確認するため、まとめプリントを準備した。これによりある程度「どのような形で理解する必要があるのか」をイメージできたのではないかと思う。 上位層については、現状絞り込んだ範囲をきちんと理解させるという方法が効果を上げている。余裕のある学生はより広い範囲の学習を進める方法を検討したが、複数の授業範囲「基礎的、発展的」という形で整理すべきか、試験問題とどのように対応させるかなどより具体的に取り組んでいきたい。特にプリントを活用した自学のタイミングが試験直前に集中しがちなため、もう少し手前の段階でまとめの学習を行うよう指導したい。 昨年度と基本的に同じ方向で授業改善を行ったが、結果が良好であったのは学習集団の意欲や基礎知識等の違いに由来する可能性もあるため、次年度も引き続き学生の理解の程度を確認しながら授業を進めたい。 昨年度本授業を履修した学生に社会調査の内容をあらためて教える機会があったが、本授業で取り扱った内容の定着度に大きな差があることがわかった。本授業の指導方法の工夫や国家試験までの1年間の間に授業外の学習を促すことなどにも取り組みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
福祉行財政と福祉計画	3	前期	必修	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	我が国の少子高齢化が益々深刻化して行く中で、単に現行の社会福祉制度に学ぶだけに学習内容と考えず、現在の財政状況から将来的に持続させて行くことへの困難さを自覚し、いかに福祉対象者へのサービスの低下なく維持し、財政状況が厳しさの中にあっても現在以上となるよう持続させるためにも財政状況を認識することが重要となることを認識できるように講義の主眼とした。 必修科目であると答えた者がほぼ全員に近かったが、資格取得に必要とした者が2割であったが意欲を見せていると思われる。 学習の準備をしたと答えていた者は国家試験を意識している者だと思われた。 自由記述に指導方法についてのコメントがあった。確かに話が多かったと思うが、講義中、終了後に意見も質問もなく、学生側にも主体的な参加を求めたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の準備性については先に示した通り、2割に止まったが国家試験を意識し学習する者がいたと判断した。 到達度自己評価で「わりにそう思う」以上の評価に答えた者の数字は主体的に取り組んでいる者の数字と相関しているものと思われる。 情報利用についてもしかりである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必修科目であるため出席率は高かったが、試験での答案内容は教科書の文言が多く自分の意見、考えを述べる者が少なかったことは残念であった。内容理解について十分とは云えない結果であった。。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示さ さい。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	福祉財政から社会の動きを講義したが話が中心となり、小テストやレポートを課し学生の理解を確認することが必要だと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	必修科目であると受講理由に答えた者が多かったことは甚だ残念である。この科目はすべての領域において重要だと考えて講義をしたが認識してくれる者が僅かであつたことを反省し次年度以降に生かしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉経営論	4	前期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が46.5%、「資格取得に必要である」が72.1%となっている。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるため、新聞記事で時事的な問題を提示したり、DVDなどの視聴覚教材を用いたり、また実習での体験と結びつけられるような話題を提示したりして、できるだけ学生が身近な内容としてとらえられるよう工夫した。また4年次の科目で国家試験を間近に控えているため、過去問を適宜提示し、授業内容と国家試験問題の内容が結びつくようにした。また毎回のコメントカードにより学生の質問や意見等を求め、次の講義の冒頭で質問等に答えるなどのフィードバックを行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない			
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は74.4点、中央値は77点、再試対象者は8名であり、課題は多いが、昨年度と比較して良い成績であった。評価割合はA評価29.4%、B評価17.6%、C評価11.8%、D評価25.5%、E評価15.7%となっており、D評価、E評価で4割を占めていた。学生の自己評価の「自分なりの目標を達成した」の項目は平均値3.3点であり、「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名いた。このことから、目標達成はどちらともいえないと判断した。DP1に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.7点、「事象を理解する視点や考えを得ることができた」の平均値は3.6点であり、目標はやや達成されたと判断した。またDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はそれぞれ、3.4点、3.5点であり、「少しそうでないと思う」と回答をした学生が2名いた。このことから、目標達成はどちらともいえないと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 4. で記したとおり、学生の成績には点数の開きがあり、全体の平均点も低かった。本科目は学生にとっては難解な科目であるが、社会福祉士の国家試験科目でもあるため、さらに学生の理解を高めるようなわかりやすい講義内容となるよう工夫を行い、全体の底上げ図っていく必要がある。さらに自発的学習を促していく工夫も必要である。事例等を用いた学習や、課題への取り組みを通して、さらに学生の理解をうながしていきたい。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記にも記したとおり、学生の理解を高めていくような取り組みや、自発的学習を促すさらなる工夫が必要である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、各項目の平均値が3.5-3.8点であった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.5点であったが、「少しそうでないと思う」の回答をした学生が1名いた。また「期間内に行うべき範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.6点であったが、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。これらの項目については、全員に周知できるよう、さらにわかりやすく伝えていく必要がある。次に「説明は理解しやすいものであった」の平均値は3.6点であったが、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。どの学生も理解できるような説明を心がけていきたい。さらに学生の自由記述には「スライドの文字が見にくい」との意見があった。講義資料もさらに見やすくする工夫が必要である。学習量の評価では、予復習、図書館利用は、少数にとどまった。課題等を提示することにより、自発的学習を促していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるが、学生への理解をさらに促し、次年度以降、成績の底上げを図っていきたい。4. で記したように授業目標の達成度は「どちらともいえない」と判断した。さらに学生の理解をうながしていくため、できるだけ学生が身近な話題としてとらえられるような工夫や、事例等を用い、分かりやすい説明に努めたい。またそれらが国家試験の勉強と結び付けられるよう促していきたい。さらに自発的学習についても、課題等を工夫してうながしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公的扶助論	3	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「必修科目である」60.0%、「資格取得に必要である」56.0%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目(本学の必修科目ではない)であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置くとともに、生活保護の被保護者に対して、ネットではびこっている偏見を決して鵜呑みにすることのないよう、生活保護制度の理念・原理・原則や制度の正確な内容、および被保護世帯の実態を正確に伝えることに重点を置いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は74.72点(福祉心理養護教諭コース74.67点、(子ども家庭福祉コース74.89点)、理想的レベル(80点以上)に達した者は32名、再試対象者は9名であった。平均点が昨年度(70.47点)より上昇していることに加えて、昨年度に引き続き子ども家庭福祉コースの学生の平均点が福祉心理養護教諭コースの学生の平均点を上回った。到達度自己評価について、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値いずれも3.6のほか、「コミュニケーション能力や表現力と高めることができた」を除く項目の平均値はいずれも3.5であった。なお、講義1回あたりの平均欠席者は3.53名、欠席率は5.20%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは比較的高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はいずれも3.6であった。ほぼ昨年度並みである。他方、「1回30分程度以上の準備」を行っていない学生は36名、「1回30分程度以上の復習」を行っていない学生は32名、授業以外の課題に取り組んでいない学生は40名で、昨年度より増加している。授業の課題以外に学習していない理由として「何をしたら良いかわからなかったから」、「時間がなかったから」という意見が見られた一方で、授業の課題以外に具体的に具体的に組み込んだ学習に「復習」、「ノートにまとめた」との回答があった。学生からの意見について、「いつもわかりやすいスライド、レジュメをありがとうございます!」、「難しい内容であるにも関わらず、分かりやすい説明やスライドなので助かってます」との意見がある一方、「レジュメの図が小さくて、後で見返した時に、少し困りました」との意見もあった。レジュメで引用する図表やグラフについては、その都度出典を示しているが、レジュメ印刷時の見やすさについても一層配慮したいと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特にないと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
司法福祉論	4	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」77.4%であった。このほか「必修科目である」も16.1%であった。なお、本科目は社会福祉士指定科目ではあるが、本学の必修科目ではない。4年生対象の科目であり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験する予定の学生が多いことから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、主な支援の対象者である保護観察対象者も社会の一員であり、先入観や偏見を抱かせないことに重点を置いた。また、更生保護の現場に携わる職員を外部講師として招き、援助のイメージの具体化に努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は73.12点、理想的レベル(80点以上)に達した者は12名、再試対象者は4名であった。昨年度(73.71点)より平均点はやや低下している。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値はいずれも3.6であった。他の項目の平均値も3.4-3.5の範囲内にあった。全体的に昨年度より平均値のばらつきが少なくなっている。他方、学生の意欲・関心について、講義1回あたりの欠席者は5.27名、欠席率は13.17%とやや高くなっているが、なかでも更生保護の専門職から話が聞ける貴重な機会でもある外部講師の講義回の欠席率が25～40%と高かったことは残念であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生がほとんどであり、学生の講義に対する動機付けは非常に高い。履修者の過半数が理想的レベルであることから、内容的には妥当であると考え。②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.7で、昨年度よりやや低下した。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値はともに3.6であり、昨年と同様であった。他方、「1回30程度以上の準備」を行っていない学生は24名、「1回30分程度以上の復習」を行っていない学生は22名、授業以外の課題に取り組んでいない学生は21名であった。授業の課題以外に学習していない理由として「時間がなかった」、「特になかったから」という意見が見られた。また、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「プリント見直し」という回答もあった。なお、学生からの意見は、特になかった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断についてはある程度達成できたものの、意欲関心については、達成できたかどうかは疑わしい。外部講師による講義時の出席率の低さが問題であるが、司法福祉分野における学生の意欲、関心をいかに高めるかが課題となろう。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
家庭支援論	4	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については「必修科目である」75%、「資格取得に必要である」33.3%、「関心のある内容である」16.7%、「単位数を確保する」8.3%と、授業への関心にはばらつきがみられた。また、家族を主題として取り扱う科目は3年次まででないため、学習準備性においては実習での個々の経験や各資格ごとの専門科目によって個人差があると考えられる。学生の学習意欲を維持・向上させながら、新たな知識や事象を理解する視点を得ることができるよう、多くの具体的事例や視聴覚教材を用いるなどの工夫を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては、すべての項目において4.0～4.2と比較的高い値であった。レポートの記述内容からも、一定程度の知識理解、事象を理解する視点や考え方、様々な課題を検討する力が得られたと考える。学習量の評価、情報利用において具体的な成果はあまり見られなかったが、他の科目や資格取得において膨大な課題を抱えている中、授業中のディスカッションなどに積極的に参加し、発言することや意見の共有を通して各学生の意欲関心が高まったこと、自分なりの問題意識を持ち深く洞察しようとする姿勢が見られたことから、達成されたと評価することにした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士資格取得に必要な科目であると同時に、福祉心理養護教諭コースの学生も履修できる科目として位置づけられており、知識習得と同時に、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲をもつことにつながる科目であると考える。このような点において一定程度の成果が得られたことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP,行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	最終学年の授業であるため、単なる知識理解に終わらず、洞察を深めることや多角的な視点から事象を捉えることの重要性に学生自身が気づき、学びを深める意 欲をいかに高めていけるかが課題である。さらに工夫を重ねながら改善に取り組んでいきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と学生の授業への取り組みや提出物から、教育目標はある程度達成できたと考えられる。さらに学生の学びを深める意欲を高め、自発的 学習に結びつくよう工夫していくことを来年度の課題としたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目(3年次対象・選択)の1つであり、相談援助演習Ⅲ(2年次後期)及び相談援助演習Ⅴ(3年次後期)と連動し、教員5名のオムニバス形式で展開している。主な内容は、各教員の専門領域(障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉)における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「必修科目である」(75.0%)が特に多く、次に「資格取得に必要である」(42.9%)が見られた。一方、「関心のある内容である」は0%となっており、学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均79.6点であり、この点では教育目標はある程度達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」(DP1)については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う14.3%、わりにそうだと思う42.9%)であり、目標はやや達成されたとと言える。「思考判断」(DP2)は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う7.1%、わりにそうだと思う42.6%)となっており、目標はやや達成されなかったと言える。「意欲関心」(DP3)は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(かなりそうだと思う14.3%、わりにそうだと思う42.9%)であり、目標はやや達成されなかったと考える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う10.7%、わりにそうだと思う39.3%)であり、目標はやや達成されなかったと言える。「技能表現」(DP5)は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う14.3%、わりにそうだと思う32.4%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う7.1%、わりにそうだと思う42.6%)であり、目標はやや達成されなかったと考える。 この他、学習量の評価(予習0回57.1%、復習0回67.9%)や図書館の利用状況(図書・雑誌を利用しなかった92.9%)から学生の主体的学習態度という点でも課題が残った。総じて教育目標はある程度達成されなかったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ると、教育目標はやや達成されなかったものの、全体の成績は79.6点であり、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラム上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは相談援助実習(3年次)の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年度は教育目標をある程度達成した一方で、本年度はやや達成されな かった。また、学生の学習量の確保や主体的学習態度の涵養という点でも 課題が明らかとなった。既述の通り、本科目は相談援助演習Ⅲ・Ⅴと連動 しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとな った課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はやや達成されなかった。今後はこれまで以上に担 当教員間の連携を図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	対象分野を絞って、そこでの課題について、受講者全員が理解することを目標にして授業を構成している。課題内容について予習することも指示はしていたが、授業中の学生の反応及びアンケート結果からこの点については十分であったとはいえない。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポート内容や授業中のディスカッションの状況から、判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	グループを循環させており、分野を絞っての演習であるが、内容的には妥当であるといえる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	各課題について、プログラムの担当になった学生と参加学生との間に若干の温度差があり、この点をどう埋めていくかが課題である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	3年前期科目で、実習等も経験してはいるが、実践場面でのイメージとそれに対する援助の在り方について、やや達成できたレベルまで受講学生と作り上げていき たい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」83.3%、「資格取得に必要である」41.7%、「関心のある内容である」および「単位数を確保する」4.2%であった。本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得を目指している。相談援助場面について具体的なイメージを抱くことが出来るように、福祉の課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用した。また、学生が主体的に学ぶ機会を確保するために、グループワークも実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価では、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」平均値3.8点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうおしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」は、それぞれ平均値3.7点であった。また、再履修者は0人であった。これらのことから、全ての学生が標準レベル以上に達しており、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDP1における内容は妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」平均値4.1点、「説明は理解しやすいものであった」および「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は、平均値が3.9点であった。また、約半数の学生が図書館の図書、雑誌またはインターネットのホームページを利用していた。本科目内で図書館やパソコンを活用したことはなかったため、講義外の時間に学生が取り組むことが出来ていたと考えられる。次年度も学生が自ら学ぶことが出来る課題を提示していく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績から、教育目標を達成することができたと考えられる。達成度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は、3.6点であった。学生と教員で本科目での学びを振り返る時間を確保し、学生自身が自分の理解度を把握できるような工夫することが課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみてみると、「必修科目である」が51.9%、「資格取得に必要である」が55.6%、「関心のある内容である」が0.0%であった。本演習は相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと連続しており、学生はすでに相談援助演習Ⅲを履修している。また本演習は「相談援助実習」とも同時進行で行われるため、学習準備性は一定程度あると考えられる。本科目では、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を通し、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。演習ではできるだけ多くの事例を用い、「相談援助実習」で実践的に用いられる社会福祉の視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。また相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導く演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は79.8点、中央値は80点であり、学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.6点で、目標は概ね達成されたと考える。DP1にかかわる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は4.1点、4.0点であり、目標は達成されたと判断した。DP2にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値は3.9点、3.8点、DP3にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値は3.8点、DP4にかかわる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値は3.9点であり、やや達成されたと判断した。DP5にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は3.8点、3.9点であり、やや達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、専門的知識の習得、課題解決能力、判断力、学びへの意欲、コミュニケーション力に関しては、内容的妥当性には問題がなかったと考える。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、各項目の平均値3.9-4.2点であった。ただ、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目で「少しそうでないと思う」と答えた学生が1名、「説明は理解しやすいものであった」の項目で「全くそうでないと思う」と答えた学生が1名いた。全員にわかりやすい説明を心がけていきたい。学習量の評価をみると、自発的学習の値は低かった。また図書館利用等についても、利用した学生は少なく、文献等の利用をうながす工夫が必要である。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価から、本演習の目標は概ね達成できたと考える。また6. 授業の質評価からは、今後さらに全員にわかりやすい説明を心がけていくことや、自発的学習をうながすことを課題としていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。 具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを実施したり、前期のみの講義で、30コマあることから学修状況確認のために、16回目あたりに講義中に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達していた。従って、標準的レベルには達成できているものと思われる。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に成績評価を行った。 また、80点以上が半数を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけでなく、幅広く、司法や障害福祉、精神保健福祉(メンタルヘルス)、貧困等々の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。 また、精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得しない学生の受講もあったが、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味があるということで、意欲を感じられた。 学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。 以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が低かった。どうしても座学の講義中心であるがゆえ、なかなか困難かと思うが、経年度の反省から可能な限り事例等の導入をし、視聴覚的なDVDも含めたアクティブな活動を入れ込む努力を行ったが、工夫が足りなかったのかも。昨年度同様ではあるが、次年度に向けて更なる工夫をすることを課題としたい。学術データベースの利用に関しても、利用の仕方からのインフォメーションを行ったにもかかわらず、昨年同様殆どなされてない状況であるので、具体的に示していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するための必須科目であり、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて講義を行ったが、2年次に精神保健福祉に関する他の講義等を受講していない学生（進路変更者等や、メンタルヘルスや障害福祉領域、医療福祉領域に関心を持つ者）も受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後期にこの講義のⅡが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供したりDVDの視聴をして検討を行ったが、さらなる方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習に関して具体的な指示を出すようにし、理解を深めていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	三木 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神疾患とその治療	3	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今後資格取得、就労において重要に身をもった科目と考えている。このため受講については必修に近い形で受講した学生も多かったと感じている。教科書で示されている一般的で基礎的な内容に加え、実際の臨床症例を多く加えるとともに、最新知識も加える形で授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	提出していただいたレポートの内容は、十分な質のものであった。今後はより深く精神医学を理解していただけるように事前の準備ができるような資料配布などを考えたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当と考える。
--	----------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	今回が初めての授業であったため一般的な講義を行ったが、学生の興味、知識のレベルが理解できたため今後は双方向性の授業を考えたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年は2学年に同じ科目の講義を行うことになったため、上記方針を次回講義より加えていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版K式発達検査・田中ビネーV、WISC-IVに関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い場面を設定した。また各検査項目を体験した後に、子どもが検査に回答するにあたり、どのような能力が関与するのかを考えさせる機会を設け、所見の書き方や読み取り方についての視座を与えるように努力した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	辞退者を抜いた成績の平均値は81.29(±11.13)であり、昨年度(74.33(±17.10))に比べ平均値が上昇した。これは昨年度においては、レポート基準を満たしていなかったことなどを理由として、単位の取得ができなかった者が複数名存在したことが影響したと考えられる。学生の自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいという意欲を持つことができた」などの項目について、それぞれ3.9,3.8,3.7,3.9と高く評価しており、対人援助職に必要な知識や技術の向上に役立ったと評価していることが見て取れ、本演習の目的にかなった結果であると理解している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「福祉臨床心理臨床の応用と展開」に位置づけられており、内容的に学科のCPとも合致すると考えられる。受講動機では、昨年度多くみられた「単位数を確保する(57.1%)」は0%となり、他方「資格取得に必要である」35.7%、「関心のある領域である」28.6%、「教員に勧められた」64.3%と大きな変化が見られた。こうした受講動機の変化が成績の平均値の上昇につながったものと評価している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、いずれの項目も4.1-4.3と高い平均値を示しており、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果であると考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことを目的とした科目として位置づけられているが、学生の到達度評価項目の(2)、(4)、(5)、(6)の結果から、学生自身が将来自分が目指す職業に役立つものととらえている様子がうかがえたため、今後も福祉専門職としての知識と技術の向上に寄与していきたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者心理学	3	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を課した。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義、及び概念の整理を重点的に行った。また障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族と彼らの生活にどのような影響があるのかについて解説することを通して、障害者への包括的な支援の在り方についての視座が得られるよう努力した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	履修放棄した学生を除いた成績の平均値は66.11(±7.80)であった。概ね75点を標準として試験を作成したが、標準的レベルに達している者は約3割と限られていた。学生の評価として「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」3.7(前年度4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.7(前年度3.9)とともに好評価であったが前年度より数値が低下しており、受講動機も「教員に勧められた」40.0%が最も高かったため、受動的に受講した者も少なくなかったと思われる。またほとんどの学生が復習をしておらず(0-2回までしかしていない者が85%)、授業以外の学習にも取り組んでいなかった(85%)。以上の事から意識が行動に結びついていないところが懸念材料である。推薦図書等を積極的に紹介したり、ボランティア活動への参加を勧めたりすることで、自己学習に結びつくように促していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、その内容は学科のCPとも合致すると考えられる。DP及び行動目標から検討するとDP1.2.3いずれも十分に達成されているとはいえず、方法的妥当性の問題があると考えられる。本講義を通して、障害者や彼らの生活、心理特性についての興味関心が高まっているものの、それが行動に結びついていない学生が多いと考えられるため、推薦図書等を積極的に紹介したり、ボランティア活動への参加を勧めたりしていこうと考えている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.8と比較的高かったことから、講義内容そのものに対する評価はそれほど悪くないと考 える。そのため成績の平均値が低かったのは学習量に問題があったのではないかと考えられる。また最も懸念されるのは、自由記述欄に「単位をください」と書かれて いた点である。受講動機からもこうした意見からも「受動的」な態度が見て取れる。予復習に加え、障害者と積極的にしかかわる機会を増やしていく事を推奨し、受講 者自身も動機づけを高める努力をしてほしい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績の平均値が想定していたよりも低かったものの、多くの学生は授業内容自体は理解しやすいと評価していた。しかしほとんどの学生が予復習や授業以外の学 習に取り組んでいないなど、意識が行動に結びついておらず、知識の定着化がなされていないと考えられるため、上記の方法等で自己学習、実践的な学びの機会 の重要性などについて触れていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
家族心理学演習	4	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は4年生を対象に開講されており、受講学生は社会福祉の基礎を身に着け、実習等での臨床経験をもって講義に臨んでいる。また、受講動機をみると、「資格取得に必要である」「単位数を確保する」と同等に「関心のある内容である」が全体の42.9%を占めていた。このような学生の準備状況および興味関心の高さを踏まえ、本講義では家族の抱える臨床的な問題についてテキストや事例を用いて、それぞれの家族の理解や支援について、受講者が考え自分の意見を述べ合った。臨床的な課題をひとつの視点からだけでなく多面的に捉えられるように、受講者が互いの意見を聞く場を多く設けるよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.4点であり、理想的なレベルに到達している。 学生の到達度自己評価は3.6～4.1にあり、受講学生自身も新たな知識について学び、その知識を活かした思考判断基準をもとに、ものごとを考えることが出来たと感じていると示唆された。 意欲関心については、受講動機の結果から学生が高い受講意欲を有していることが分かり、授業中も学生自身の意見を述べるなど積極的な参加であった。 しかしながら、学習のための図書館やインターネットの利用については、半数以上が利用しておらず、自発的な学習には繋がらなかった。そのため、受講学生の興味関心分野に応じて、参考文献などを紹介し、自発的な学習へとつながるよう心掛けたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	対人援助の基礎知識や実習等での実践経験をもった4年生の学生を対象にした授業である。最終学年として、専門的な知識の更なる獲得 (DP1-2) と、その知識をもとに思考判断し支援の在り方を考える力を身に着けること (DP2-1)、さらに社会における臨床対象が抱える課題やその支援について考え続ける姿勢をもつこと (DP3-1,3-2) は非常に重要であり、開講学年および対応DPは妥当であると考えられる。 また、上記のような目標に対し、学生同士や学生と教員間で、意見を交わす授業形式は妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記欄に回答したように、学習のための図書館やインターネット利用が少なかったことから、授業での学習がさらなる学習意欲や興味関心へと展開されるよう、適宜関連する分野についてや参考図書などについて紹介していきたい。 自由記述においてロールプレイングを用いた授業に対し、「ロールプレイングが楽しかったです。様々な役割になると見えてくるものがあるなと思いました」と肯定的な感想が書かれていた。今後も体験的な気づきが得られるようロールプレイングなどを適宜用いながら授業を進めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義の目的とする専門的知識の獲得、支援方法の適切な検討、社会の課題に関心を持ち支援について考えようとする姿勢の向上については、概ね達成できたと考えられる。 授業中での学習が、さらなる興味関心とつながるよう課題の提示の仕方や参考文献の紹介などで工夫を行っていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習(病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」92.6%、「必須科目である」29.6%、「関心がある科目である」3.7%であった。このことから、授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。 ②地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、知識を表現するためにグループワークを取り入れ、学んだことを発表し、知識の定着を行った。また、養護実習との関連から、実習で学んだことをグループワークで発表し、教育の現場での実践化につなげる教材の工夫を行った。 さらに、養護実習で経験したことをもとに事例検討会を行い、養護教諭の役割について討論を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は76.0点(±7.7)であった。理想的レベル(80点以上)は、13名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、86.8%、思考・判断76.0%、関心・意欲76.0%であった。知識・理解では、昨年度の課題であった基礎的な知識を活用し、応用して問題を解くことの理解については、正答率が昨年度より上昇した。さらに、授業で基礎的な知識の定着を図りつつ、グループワーク等を通して応用力の定着を図るよう授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては、知識・理解の観点平均値4.1(中央値4.0)、思考・判断の観点平均値4.1(中央値4.0)であり、到達度自己評価にはあまり差はないことが示された。関心・意欲は平均値4.1(中央値4.0)であり、技能・表現の「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と答えた学生は平均値4.0(中央値4.0)であった。今年度は、昨年度の課題であった、表現力についての教材の工夫を行った。さらに授業改善に努めていきたい。 学生が知識理解の観点において、基礎的な知識はある程度定着していると考えられる。さらに応用問題が出された場合に、基礎知識を活用し応用問題に対応できるように授業構造を改善していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要であるため」と92.6%が答えている。また、授業評価では「自分が学ぼうとしている専門分野においさまざまな課題を検討する力を得ることができた」平均値4.1(中央値4.0)、「専門分野において学びを深めたいと、意欲を持つことができた」平均値4.1(中央値4.0)と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP、行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て、知識・理解に関する達成度86.8%であった。基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は、学校現場での実践を想定した相談事例について、事例検討会を実施した。具体的な事例を通して、実際の事例検討会のシミュレーションを授業の中に取り入れた。さらに、講義でしっかりと基礎知識を定着できるよう、グループワーク等の演習を交え、学校現場で実践できるような力を身につけることができるように授業を改善していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、養護教諭の一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識理解の面は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに学校現場で活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。また、今年度から取り入れた事例検討会のシミュレーションをより効果的に授業内容に取り入れていきたい。 また授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を設け応用問題等の提示をし、応用力の養成に取り組んでいきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎看護技術	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得のために必要である」と91.3 %の学生が答えている。しかし「関心のある内容である」が8.7 %であり、目標ははっきりしているが、関心が低いという結果であった。そのため看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように講義を行った後、演習において実技のオリエンテーションを行い、さらにグループで具体的な事例を用いて実技演習を行った。 ②基礎看護技術の定着については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるために、15コマ目に実技試験を行い、知識や技能の定着を確認した。実技練習時間の十分な確保と丁寧な実技指導を心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は77.5点(±7.6)であり、再試験対象は0名であった。理想的レベルに(80点以上)に達したものは9名であった。目標別にみると、知識・理解に関しては、73.0%、思考判断に関しては、72.0%、技能・表現に関しては、80.0 %であった。 授業評価の指標については、学習の到達度評価の全体評価では、「自分なりの目標を到達した」と回答した学生は平均値3.7(中央値4.0)であった。到達度自己評価において、知識・理解の観点、思考・判断の観点において、到達度自己評価にはあまり差がないことが示された。今年度は昨年度の反省を踏まえ、実技演習の時間の確保ができるように配慮した。模擬保健室を活用し、ベッドメイキング、バイタルサイン測定等の練習ができるように十分な時間の確保を行った。学校現場の実践において、看護の基礎技術を応急処置等にどのようにいかすのか、また、対人援助職としてどのように支援するのかということを課題ととらえ、授業内容を改善していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップからの位置づけからみて内容的妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が、「資格取得に必要なため」と91.3%が答えている。また、授業評価の到達自己評価において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」平均値3.9(中央値4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」平均値3.9(中央値4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」平均値3.9(中央値4.0)、と答えている。また、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP、行動面目標からみての妥当性 成績評価から、知識・理解に関する達成度は、73.0%であり、技能・表現に関する到達度は高かった(80.0%)。そのため、授業で学んだ知識・理解の定着を図るよう、授業内容を工夫することから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価において、課題以外に取り組んだこととして、ペットメイキングの方法を確認し熱心に取り組んでいた。さらに実技実習の時間の確保については学 生が十分技術の練習が確保できるように、授業時間の構造を改善していきたい。また、今年度は模擬保健室を活用し授業行うことができた。さらに、学生が授業や 実技の練習に取り組めるよう模擬保健室の施設を充実させ、活用していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭の一種免許状資格取得に必要な科目である。昨年度の課題であった基礎的な知識・理解、技能・表現についてはあらかじめ達成できた。 さらに、学校現場でに生かすことができるような基礎的な知識や技能が習得できるように、授業内容の改善に努めてきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護臨床実習	3～4	後期・前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。受講動機としては、「必須科目である」32.1%、「資格取得に必要な科目である」92.9%の学生が答えている。しかし、「関心のある科目である」7.3%であった。このことから目標ははっきりしているが、関心が低いという結果であった。 ②3年生の授業では、2年生での看護学の学習を踏まえ、病院実習における実践的な知識を身につけるために、解剖生理学の復習を授業に取り入れた。また、グループワーク等を取り入れ、具体的な事例を用いて授業を行った。 ③また、4年生の看護臨床実習では病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、学校現場で実際行う保健指導の模擬授業、ロールプレイなどを取り入れ知識理解の定着を確認し授業を行った。 ④救急処置の演習について、外部講師を招きAEDの使用方法など事例を通したシミュレーションを行い、学校現場の事故対応について授業をおこなった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は85.0点(±5.8)であり、再試験対象者は0名であった。また、理想的レベル(80点以上)は、24名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、81.0%、思考判断81.0%であった。態度(DP4)の職業倫理や行動規範については、89.0%、技能・表現については、81.2%であった。この結果から、授業で学んだ基本的なスキルを対人援助職として活用し、表現していくかを課題ととらえ、次年度に向けて検討していきたい。 学生による授業評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.3(中央値4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について必要となる技術を身につけることができた」4.1(中央値4.0)であり、知識理解、思考判断についてはあまり差はなかった。また、関心意欲については4.2(中央値4.0)と高く、到達度自己評価において、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深め意欲を持つことができた」平均値4.2(中央値4.0)と答えていた。 このことから、授業で学んだ知識を専門職として表現できるような機会を授業の中で取り入れていくことが考えられる。そのためには具体的な事例を例示し、グループワークやロールプレイをさらに取り入れていくことを検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、「養護実習」の履修要件科目である。授業準備性の欄で示したように、受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要なため」と92.9 %が答えている。また、授業到達度目標も「自分なりの目標を到達した(平均値3.8中央値4.0)」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた(平均値4.1中央値4.0)」と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標から見ての妥当性 成績評価から、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現ともに高かった。さらに、授業で学んだ知識・理解、思考・判断を授業で表現できるような、授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であると考えられる。また、学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容を活かし、養護実習や教員採用試験の勉強に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生における授業評価については「、友人と授業内容を確認し、実技の練習に取り組んだ」、「救急隊の方との演習が楽しかった、学びが増えた」という学生の意見があった。また、授業以外に取り組んだこととして、「教員採用試験の勉強を行った」などがあった。さらに、学校現場で養護教諭として実践に生かせるような具体的な事例を通して、グループワークやロールプレイを取り入れ授業内容の改善していきたい。 □
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目である。達成率は、知識・理解、思考・判断、技能・表現ともに昨年度に比べると高くなった。さらに、専門職として臨機応変に対応できるような技術を習得できるよう、授業内容の改善に努めていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	東 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬理学	3	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本年度の福祉学科における薬理学の受講者は、第一回目の授業で学生に受講動機を訊ねたところ養護教諭を志す学生が9割であり、養護教諭に必要な薬理学的知識を含む講義内容としている。但し一部の学生は単位に関わらず内容に興味を持って受講していた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	56%の学生は理想レベルに、33%の学生は標準レベルに達していた。合格した学生は記述式問題において基礎的な用語を用いて適切に説明ができていた。再試験受験をした学生もいたが再試験で合格した。 理想レベルの割合が高くなかったが、学生によると今年は試験日程が影響したかもしれないとのことであった。 一昨年度からシラバスの内容について予習を促すようにしているものの、「学習量の評価」では、4割程度の学生しか予習・復習を行っておらず、改善が見られなかった。 また、使用するテキストは専門的で福祉学科の学生には難しい点があることから講義資料を配布するようにした。学生アンケートでは、配布資料への書き込みによる記録を行なった学生の割合の増加が見られ良い傾向にある。しかしながら、理解度の低い学生がおり改善の余地もある。次年度もコメント用紙等にて学生の理解度を把握するよう努める。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、「資格取得に必要である」が多く、当該授業の初めに行ったアンケートでも養護教諭になるため、と回答した学生が多かったことから、DP1【知識・理解】のうち、CP2「養護教諭として必要な専門的知識を身につける」を目標としている。 到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と答えた学生は多く、内容の方向性に問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「テスト等の評価基準が明らか」、「学習の範囲が明らか」、「質問の機会がある」の3項目はある程度の学生の評価より、「説明の理解しやすさ」と「授業中に話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られたか」についての評価は低かった。 理解の難しさについては、看護学生向けのテキストを使用しているのも一因であると思われるが、アンケート結果を見ると当該科目では4割程度しか予習・復習を行っていないことから、予習・復習を促すようにする。15コマという制約の中で学生が話し合い、発表したりする機会を設けるのは今後も困難であるが、理解度についてはコメント用紙回収を今後も行い把握していくこととする。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	受講した半数以上が理想的レベルに達し、試験を受けた学生は最終的に標準レベル以上に達したが個人差も大きい。 今後の課題としては、養護教諭としてある程度の知識が必要と感じながらも他の科目より学習量は少ないので、次年度は講義時間外にも薬理学に興味を持ってもらうような具体的な予習・復習課題を示す。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は必修科目であり、養護教諭資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である17.4%、「資格取得に必要である」87%で、「関心のある内容である」0%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する資料を配布し、できるだけわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は80.8(±8.5)点であり、不合格者はいなかった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した。 ②「自分なりの目標を達成した」と答えた者は100%で、知識理解、意欲関心については目標が達成されたと考えられる。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も91.3%であった。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、保健医療関係科目」であり、選択科目である。養教一種免許状に必須である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、関心意欲については目標を達成した。国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.3で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.0であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.0 で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.1であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、 課題解決型学習に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、特に意見と要望はなかった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解の面で課題は達成できたが、関心意欲については課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要 性をしっかり説明し、学生の関心意欲のさらなる向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、 毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行ってきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、充実させ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの保健Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。そのため、資格取得のために受講している感が強く、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目である。 毎時間、前回授業の小テストを行うと共にコメントカードの回収を行い、疑問点が残らないように配慮した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」において1項目を除いて(自分なりの目標を達成できた:3.8点)4点以上であり、学生の主観的な達成度は概ね高いと考える。学生の経験として、保健技術を取り上げたが、進捗状況から見て時間確保が十分ではなかったと考える。また、教授内容が多岐にわたるため、学生が授業についていくのに大変な様子が伺える。そのため、全体として到達目標は「やや達成された」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかわる科目であることから、関連DPについては妥当であると考ええる。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考ええる。 資格に必要な科目であるという点から、学生の積極性は2極化していると考えられ、授業評価からも準備や自己評価が2分されている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。教授内容に対して授業時間が不足する感はある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、資料提示等に工夫が必要であるとする。

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義の開講時期は、3年生の前期である。専門知識を身に着けつつも、まだ実習等で実際に子どもと関わった体験をして居ない学生もいた。また、受講動機については「必修科目である」が22人中18人、資格取得に必要であるが22人中7人であった。意欲的な理由から履修したものは居ない結果となった。 そのため、子どもと関わった経験の少ない学生も子どもと関わるイメージが持ちやすいよう、また、受講学生が本講義で学んだことを実習などで活かすイメージが持ちやすいよう、具体的な事例を挙げて、子どもの理解やかかわりについて考えてもらう授業内容とした。 加えて、受講学生の中には発達心理学に関連する講義を受講をしてらず、発達心理学の基礎知識の乏しい学生もいたため、演習だけでなく基礎知識に関する講義も行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な学生の成績は平均値が76.1点であり、成績の度数分布では、60点代が6人、70点代が7人、80点代が8人、90点代が2人であった。これらのことから、多くの学生の学習到達レベルが概ね標準的なレベルに達したと考えられる。 到達度自己評価におけるすべての項目において、「③まあまあそうだと思う」と評価した学生の人数が最も多く、学生自身も専門的な知識の獲得や、思考判断力の向上、専門技能の習得が出来たと実感する程度は強くなかったと考えられる。特に技能(DP5)に関しては、講義や事例の提示だけでは、受講学生が習得した感覚を持つことが難しかったと考えられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生は、本講義を専門的知識をある程度身に着けた状態で受講する。また、DPでは、専門的知識の習得から技能の習得まで幅広い達成目標が求められている。上記の内容を踏まえると、授業内容により具体性を持たせる必要性や、ロールプレイなど体験的な授業内容を取り入れる必要性が考えられた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	上記欄に記載したように、授業内容に具体性を持たせ学生自身が専門的な視点から思考判断できることを目指し、グループディスカッションの時間を確保すること や、ロールプレイなど体験的な学習方法を用い、技能の習得という目標に近づけられるよう工夫していく必要があると考えられる。 また学生の理解度を確かめるためにも、感想質問シートなどを記入してもらい、学生と教員で学習内容に関する相互的なやり取りがなされるよう工夫していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義の目的とする専門知識の習得、専門的知識を活かした思考判断力、ひとの発達支援に向けた意欲の向上に対し、概ね標準レベルには達した学生が多か った。授業内容や授業方法の限界から専門的スキルを習得した感覚を持つことは難しかった。そのため、今後は授業内容と授業方法について、より体験的なものを導入 するなどし、工夫していく。また、多くの学生が標準レベルや理想的レベルに達することが出来るよう、学生の理解度を確認していくよう配慮していく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育課程論	4	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生の動機がそれに該当するが、基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても全ての項目で平均値が3.8点であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。授業中のプレゼンテーションについて、グループによっては、内容が十分でないグループが若干あり、やり直し等も行った。そのため、最終的には全てのグループで質の高い発表ができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に中・長期の保育計画について理解し、立案ができるようになることが最大の目標であることから、関連DPについては妥当であると考え。また、保育計画立案のためには、乳幼児の発達について理解していることが前提となる上に、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	長期計画の立案に関しては、基礎的な知識の教授後に実演を交えての課題として設定していたが、学生からの質問が非常に多く、講義の中で実演を予定より増やして提示を行った。結果として、学生の理解が進んだと考えられるが、来年度からは、さらに長時間の確保が必要と考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	特に長期計画立案については、長期に渡る家庭学習が必要であることから、学生の負担は大きいと考える。とは言え、保育士資格取得の上で特に4年制の保育士養成ということを踏まえると、就職後必ず必要となる内容であるため、教授内容を変更するわけにはいかない。また、授業中に時間的な余裕の無さについては意見があったが、授業評価アンケート内では確認されなかったため、問題ないと考える。今年度も学期当初から、家庭学習が長時間必要になるという説明はしていたが、来年度はさらに強調して説明する必要があると考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 環境	3	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないこと、演習内容として栽培活動があるため、その点については変更しようがない。その他の教授内容については、事例提示だけでなく視聴覚教材を交えての教授を試みたが、積極性については2分されているようで、意欲を高める工夫が必要である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても概ね平均値が3.4～3.8点であり、一定の達成度は得られたと考える。ただし、シラバスの活用や、図書館利用については全くなされておらず、その点は授業開始時の説明や、課題提示の方法について検討する必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかわる科目であると同時に具体的に「栽培すること」や「作成すること」といった課題があることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。本年度の特徴として、資格取得は目指すものの、希望進路とは必ずしも一致しないという学生が一定数おり、積極性や主体性を高める点に苦慮した。その点については、再考する必要があると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、資料提示等に工夫が必要であるとする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会的養護内容	4	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生対象の科目であり実習等も経験していることから、学習準備性があったと考えられる。演習科目であるが、事前にテキスト当該箇所を予習し授業に参加することを求め大方の学生の参加度は高かった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	予習でまとめてきていたノートとその日の学習内容の記述で大方の学生がややではあるが目標を達成できたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容の妥当性はあると考えられる。
--	-------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	予習して授業に臨むことが授業の条件であり、成果物を毎回提出すること求 めて進捗状況を確認できた。大方の学生の参加度は高かった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	少人数授業で、学生の状況が把握しやすかった。まだまだ学生に伝えたいこ があるが、学生の準備状況を見て、次年度の授業に取り組みたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-ray再生装置の音声小さく、うまく学習ができなかった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は69.00であり、全体の平均値65.12を3.78ポイントほど上回った。他学科に比してやや高い。とは言え良かったと言えるほどの数字もない。 ②しかし、到達度の自己評価は全項目の中央値がすべて3.0であり、全項目の平均は2.8～3.1であった。これは前年よりやや低い。また、 ③授業の質評価は「少しそうでない」と「全くそうでない」という評価に項目によっては10名以上があり、授業がかなり理解されていないという危惧がある。各項目の平均値が2.8～3.1であり、中央値は全て3.0であった。わかりやすい授業を目指して努力しなくてはなるまい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程なので科目の位置づけは問題ない。 ②到達度自己評価において数値がもう一つなので、教職意識の醸成に努めたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①授業がわかりにくいという声があるので説明の仕方に工夫したい。 ②試験の方法で混乱したようなので、事前の説明を十分に行いたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	もっとわかりやすい授業改善に取り組まなくてはいけないだろう。
------------------------------	---------------------------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。特に資源が豊富にあるわけでないわが国では「教育は国家100年の計」とはよく言われてきた言葉である。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むようにそして明日の子どもたちの心理に訴えかけられるような教師になれるように学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。試験結果を見てみると、しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。取り組んでくれた学生に感謝したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を具体的にシラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。毎授業の終了時点で回収する感想と質問のコメントにもよくあらわれていた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「映像の力は大きい」と再認識している。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に 毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ毎年のことであるが学生らの意見の中には出来るだけ授 業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法をさらに試みてみたいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体现している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学 習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。対話型の講義を今年も模索したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシート内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が23名中15名、そのうち80点以上が6名で、さらに90点以上が1名であった。また、到達度自己評価においては、(2)「知識の確認修正」(3)「理解の視点・考え方の獲得」(6)「学びを深めたい意欲」の項目が相対的に高かった。一方、(7)(8)の技能表現に関する項目については、若干低い評価となっている。そのようなことを総合的に考慮し、全体としては「達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、小中学校の養護教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目(6)「学びを深めたい意欲」(10)「職業選択の参考」などが比較的高評価だったことは成果と言える。また、併せて、各授業後の振り返りシートの記述内容などから、本科目の内容的な妥当性は高いと判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関しては、すべての項目で評価は高かったが、特に(3)の「説明の理解しやすさ」などの点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容や参加型の内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	将来、養護教諭をする可能性のある学生であるため、健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体を俯瞰しつつ、各内容の詳細について考察したため、再確認したり繰り返し解説したりするなどの時間が必要であった。そのため、指導案作成などの演習やグループでの話し合いに費やす時間が十分とは言い難かった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても重点化を図るなど、今後も工夫改善を図っていく必要があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②模擬授業のための教材を一つに統一し、一コマに1グループの模擬授業を入れることとしてじっくり模擬授業と相互批判ができるようにした。 ③模擬授業の総時間を増やしたが、1コマ1模擬授業にしたため模擬授業をできないグループができた。 ④評価シートを書かせ、相互批判を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は80.17であり、全体の平均値79.22より0.95ポイント上回った。 ②到達度自己評価の中央値は各項目に於いてすべて3.0であり、平均値は3.1～3.2であった。「少しそうでない」という評価に1～2名ぬるのが気になる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程なので問題はない
--	---------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均値が3.0～3.7であり、中央値は3.0乃至4.0であった。説明の理解しやすさで3名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を目指して努力しなくてはなるまい。 ②説明がわかりにくかったという意見があり、説明を丁寧にするよう心懸けたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①模擬授業は同じ教材では飽きてくるようなので、複数の教材を扱わせたい。 ②準備時間にもう少し時間をかけたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	福祉学科平均72.5(昨年度75.8)、全学科平均70.9。秀0、優9(30.0%)、良15(50.0%)、可5(16.7%)、不可1(3.3%)。平均点はわずかに低下。可・不可が10ポイント上昇し、秀・優が10ポイント低下し、特に秀は0人であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	平均点は問題ないレベルだが、昨年度と比較して秀がいない、可が増加したなど問題が多い結果となった。 学習指導案の最低基準のクリアはある程度達成できたが、それ以上の工夫（発問や板書、資料の効果的な使い方など）において深く考えた様子が見られない答案 も少なくなかった。自分が授業をするという仮定をリアルに感じられていないのではないかという疑念が残る。 次年度は授業づくりを楽しみながら自分のものとするような取り組みを行いたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	優れた指導案を書ける学生を少しでも増やすことが次年度の課題である。養護教諭免許であるため直接的な道徳指導案の作成と意欲が結び付きにくいということも 考えられるが、同様な立場にある看護学科が優れた結果を出している以上、福祉学科も同じような取り組みができるはずである。具体的な授業イメージをもてるよ う、中間発表やそれに基づく指導などを充実させたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「必修教科」31. 8%「資格に必要」81. 8%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③昨年度は課題等を与えることなく学生の自主性にまかせた対応であったため、学習量の評価が低い状況であった。今年度は初回の授業から課題を与え事前の学習準備を行い提出させたことにより、全体的に学習量を増やすことができた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生22名中「まあまあ」「かなり」「わりに」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「2名、10名、10名」「1名、10、11名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答が22名で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、22名で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、22名で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ22名で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足な結果となった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「資格に必要」であり、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では、現代の学校現場の課題や、子ども達の抱える問題について、事例等で学ぶ事ができたとの意見があり、学生にこちらの思いが伝わっていることがわかり成果を感じることができた。また、学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、授業の中で感謝の思いを伝えていただくことがあった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見の中で小論文の書き方について練習したとの意見は、常に授業中、学生へ積極的に取り組むよう指導してきた効果であった。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については、今年度は課題を与える等を行ったため、事前に事例等を学習し授業に生かすことができ、発表も多くなり授業が活性化された。 ④授業中での情報機器や図書館の活用は無かったが、学生は事例等を調べるため個人での活用がなされたものとする。今年度は学生のグループ発表等で主体的に活動するような授業を増やすことができた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度はさらに学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体66名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが66名で100%であって、他の動機は「単位数確保」が4名で60.6%、「友人が履修」が1名で1.2%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「17,27,27」で93.4%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「3,2」で6.6%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には福祉と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は76.2点であり、再試験対象は4名であったが、再履修者はいなかった。最終的に、分布的には、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は29名で37.7%であり、標準レベル(概ね60点以上)のそれは48名で62.3%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 76名の学生の達成自己評価を見ると、<知識><理解>に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「20,26,27」と「14,28,29」で 96.1%と93.4%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「1,2」「2,2」で3.9%と5.3%であった。③ 専門分野での<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「8,16,38」と「8,13,39」で81.6%と78.9%であったのに対し、否定的回答は「10,4」と「12,4」で18.4%と21.1%となった。④ 専門分野でも<意欲>に関し肯定的回答は「7,12,42」で80.3%であり、否定的回答は「11,4」で19.7%であった。⑤ さらに専門分野の<技術>と<コミュニケーション>、表現力>の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「7,11,40」「5,8,46」で76.3%と77.6%であったのに対し、否定的回答は「14,4」と「13,4」で23.7%と22.4%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「6,17,42」で85.5%であったのに対して否定的回答は「8,3」で14.5%であった。⑦ <職業選択の参考>では、肯定的回答は「5,7,40」で68.4%であったのに対し、否定的回答は「19,5」で31.6%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>では3.9%と5.3%であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、<検討する力><判断する力>ではそれぞれ18.4%と21.1%、<意欲>も19.7%であり、<技術><コミュニケーション>、表現力>習得では23.7%と22.4%であり、<倫理・規範>に関しては14.5%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<倫理・規範>、これらの分野では否定的回答が前者2つは3%と5.5%台、そして残りが14%台であった。これに対し、専門分野では、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる<検討する力><判断する力>、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける<意欲>並びに、<技術>の習得という専門分野と、適切な関係を形成する<コミュニケーション>、表現力>に関しての否定的回答はそれぞれ18%台と21.9%台、19%台、23%台と22%台であった。つまり、DPの位置づけにおいても、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野に多く、否定的回答は専門と技能表現の分野において増加するという、CPと同様なことが見られる。以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は、3件の感謝の他に難易度について4件、板書につき1件、毎週の「自己学習記録」の評価につき1件あった。この面での改善が必要である。学習量につき、13人が取組んだ学習内容を挙げ、22人が取組まない理由につき、「必要性を感じなかった」(10)が多く、「時間がなかった等」(9)が続き、「何をすれば良いか分からない」(2)「授業で理解したから」(2)という学生もいた。第1回目授業から、テキストを予習・復習で読むように頻繁に奨励したが、動機付けが不十分であった。② 学習量の評価を見ると、延べ人数で見ると<1回30分以上の予復習>6回を14人が実践し、1回以上は41.4%で4割程に留まった。③ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「15,26,30」で93.4%で、否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「3,2」で6.6%あった。<理解しやすい>という項目では、肯定的回答は「4,14,36」71.1%であったが、否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「16,6」で28.9%と3割弱あった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「5,25,36」で86.8%あり、否定的回答は「7,3」で13.2%あった。<参加の機会>では肯定的回答が「5,14,40」と77.6%であり、否定的回答が「14,3」で22.4%であった。④ 今後、知識・理解をより得られるように説明の改善に向け、1)パワーポイントの利用、2)予復習の必要性の明示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、<6. 授業の進め方とその向上について>の④に記載した改善策に取り組む工夫をする。確かに、再履修の学生がいなかったが、しかし、テストの点が好ましくなく、テスト以外の点との総合点で何とか及第点に達した学生も若干いた。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後はパワーポイントを用い、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「19,25,25」で89.6%であった。② 他の学科との全体授業であったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「14,20,32」で85.7%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるように、創設者等の先達者の学校墓地（西南の森）を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績で見ると、受講生77人中、97.4%にあたる75名の受講生は標準的レベルに達したが、2名は提出課題の不足で標準レベルに達しなかった。② 学生の達成自己評価を見ると、<知識><理解>に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「14,31,27」と「10,31,29」で93.5%と90.9%であった。レポートには、受講生が積極的に関連する事項を図書館やネットで調べ、順序良く書かれよう指示し、字数を満たしていないものや、内容が十分でないものには再提出を課していることから、内容に関して単位取得の課題を充足しない受講生は、0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、<知識><理解>では「少し」「全く」の順に「3,2」とも「2,3」でいずれも6.5%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための<知識><理解>は否定的回答が6%台あった。③ 以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は13件で、感謝や肯定的評価が3件、要望的に「説明」に関するものが8件、「提出物」に関するものが1件、さらに、この科目自体の否定的評価が2件あった。検討し、適切に対応したい。② 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「20,24,26」で90.9%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「10,19,33」で80.5%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「14,20,32」で85.7%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「12,20,32」と83.1%であった。④ 今後のことであるが、この学生の授業評価を参考に、1)今後も理解向上のために、レジメ等による説明の工夫、2)理解の共有化を図る工夫、3)3学科全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にすることが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、改善に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナー I	1	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が100%であった。この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(6回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は2名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、大学における学びが必要不可欠である「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル(80点以上)に達した学生は65名、再試験対象者は1名であった。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.0、「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が3.9であり、平均値が3.4であった「職業選択の選考になった」を除き、その他の項目も3.8を示しており、全体的に昨年度とほぼ同様の数値を示している。学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が25名、1回行った学生は4名、2、3回行った学生は23名、4.5回行った学生は9名、6回行った学生は15名と、授業準備を行った学生と行っていない学生について、大きなばらつきが見られた。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は57名、学術データベースを利用した学生は36名、インターネットを利用した学生は60名にのぼっている。ゆえに、半数以上の学生について、大学における基本的な学習の技能が会得できていると評価できよう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であるとする。②DP,行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値が4.2、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がいずれも4.0であった。これらについても、昨年度とほぼ同様の数値を示している。他方、学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は41名、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は62名にのぼり、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は11名であった。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「本を読んだ」、「パソコンで調べ学習などしました」などが挙げられていたが、これらはいずれも授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「課題が十分学習として成り立っているとおもったから」、「特にすることがなかったから」、「時間がなかった」、「授業中に終わっているから」、「他の科目の予習・課題があるため」、「やり方がわからない」などの意見がみられた。大学での学習の技能は、振り返り、繰り返ししながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言える。学生の意見については「レポートの書き方がよく分かりました」、「本に対する興味や、パワーポイントの使い方を知ることができました」との意見がある一方、「毎週毎週の課題が他のグループに比べて多かったので、大変でした」、「グループごとで課題の量に差をつけるのは、やめてほしいです」との意見も寄せられた。内容や課題については、各教員の専門分野に応じた進め方に沿っているため、課題の多寡や難度については多少の差が出ることはやむを得ないが、担当教員間でテーマや内容の共有や難度の平準化を図るように努めたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	2018年度から開始されたこの科目では、全学共通の総合人間科学科目として「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いたが、当初の目標はおおむね達成できたと言える。後期に行われる「初年次セミナーⅡ」ではこの科目において培った各技能を基に、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指し、「初年次セミナーⅠ」「初年次セミナーⅡ」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身に付けることを目指す。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次の授業で説明を行った。 毎回の授業内容について復習、ならびに復習の過程でさらに興味関心を持った内容について調べ、まとめたノートを提出させることによって、学生の学習の状況を確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.7(±10.1)点であった。成績分布別にみると、90点以上が10%、89～80点が33%、79～70点が33%、69～60点が24%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち43%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が22%、「わりにそうだと思う」が51%、「まあまあそうだと思う」が21%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」とい質問では、「かなりそうだと思う」が59%、「わりにそうだと思う」が33%、「まあまあそうだと思う」が7%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.5)。また、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が16%、「わりにそうだと思う」が62%、「まあまあそうだと思う」が18%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.1～4.5であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、予習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が約13%、「1回」が11%、「2、3回」が25%、「4、5回」が12%、「6回」が39%いた。一方、復習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が1%、「1回」が4%、「2、3回」が12%、「4、5回」が12%、「6回」が71%いた。このように40～70%の学生が習慣的に予習・復習を行っていたことから、学習に対する動機づけはある程度行うことができた考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	いいえ	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.5(±7.5)点であった。成績分布別にみると、90点以上が8%、89～80点が72%、79～70点が14%、69～60点が6%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、80%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が48%、「わりにそう思う」が40%、「まあまあそうだと思う」が12%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.4）。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が23～29%、「わりにそう思う」が31～51%、「まあまあそうだと思う」が18～35%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6～4.1）。 「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が28%、「わりにそう思う」が42%、「まあまあそうだと思う」が25%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。 「技能・表現 (DP5)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）についても、「かなりそうだと思う」が22～46%、「わりにそう思う」が31～34%、「まあまあそうだと思う」が20～40%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6～4.3）。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は2018年度より新たに始まった科目であり、看護学科、福祉学科および栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題への認識を深めていくものである。この授業では、各学科の学生が何を目標しているのか、そのために何をしているのか、他の専門職から何を期待されているのかを知る機会を提供するとともに、できるだけ具体的なイメージを得て、学ぶ意欲に繋げることに重点を置いたため、その進め方は、保健福祉学部長、各学科長、各専門職からの外部講師・卒業生によるオムニバス形式とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.5(±8.1)点であり、再試対象者はいなかった。成績分布別にみると、90点以上が3%、89～80点が26%、79～70点が46%、69～60点が24%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち29%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が19%、「わりにそうだと思う」が62%、「まあまあそうだと思う」が19%とすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」とい質問で、「かなりそうだと思う」が66%、「わりにそうだと思う」が31%、「まあまあそうだと思う」が3%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.6)。また、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が41%、「わりにそうだと思う」が44%、「まあまあそうだと思う」が14%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.2)。 「意欲関心(DP3)」に関する学生の到達度自己評価については、「自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が63%、「わりにそうだと思う」が30%、「まあまあそうだと思う」が7%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.6)。 「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価については、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」という質問で、「かなりそうだと思う」が40%、「わりにそうだと思う」が38%、「まあまあそうだと思う」が22%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.2)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「基礎教養」領域に含まれる科目である。この授業では、各学科の学生が何を目標しているのか、そのために何をしているのか、他の専門職から何を期待されているのかを知る機会を提供するとともに、できるだけ具体的なイメージを得て、学ぶ意欲に繋げることに重点を置いたため、保健福祉学部長、各学科長、各専門職からの外部講師・卒業生によるオムニバス形式で進めた。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文章など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.2～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標は概ね達成できたと考える。
------------------------------	------------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の知識という位置づけで講義内容を組み立てた。講義では“生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて、基礎的な知識修得から応用へと学生を導くよう心がけた。 ② 学生には、上記の講義内容にわかりやすい事例を用い説明した。また、配布した講義プリントに重要点を書き込むよう指示した。 ③小テストの導入は、学生に緊張感と学習準備を促す意味で効果が見られたため、今年度も継続し実施した。試験終了後は解答を導くための解説を行い、成績も開示した。 ④ 講義途中と講義後に質問を受ける機会を設けた。理解が難しいと思われる講義内容は、グループディスカッションをさせ、その後、再度質問を受けるようにした。 ④ 学習課題の評価項目には、雑誌・図書を使うことを明記し学生に図書館活用を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は80点(±14.2)で、81%の学生が標準的レベル(70点以上)に達し、理想的レベル(80点以上)に達した学生は70%であった。筆記試験の平均点は63/80点(得点率79%)、小テストの平均点は7/10点、講義後の提出課題の平均点は8.7/10点と、昨年度に比較し理想的レベルに達した学生が多かった。 ②学生の到達度自己評価では“自分なりに目標を達成した3.9”、“新しい知識など得ることができた4.4”、“事象を理解する視点を獲得することができた4.3”であった。また、“専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた”とする自己評価平均値は4.1であった。 ③授業の質評価では、“テストの評価基準や課題の明確さはともに4.6”、“説明の理解しやすさ4.4”、“話し合う・発表する機会があった4.2”、“質問を受ける機会を設けていた4.4”と、特に昨年度より“評価基準や課題の明確さ”、“質問を受ける機会を設けていた”の項目に対する平均値が高くなった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予復習を2～3回以上した学生が36～45%、また、課題以外に学習に取り組んだ学生が45%いた。学生からも「興味ある病気のことを調べた」、「本を読んだ、関心があったことを調べた」などの意見があった。一方、予復習に1回30分もかけてない学生は、44%・25%と学生間に学習量の差が認められた。 ④図書館で図書・雑誌を利用した学生は83%、学術データベースを利用した学生は38%だった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 大学で学ぶ生物学として、専門科目を意識したこの科目の内容及び一般教養科目として1年生を対象にしたカリキュラム上の位置付けは妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機に“関心がある”とした学生が40%、一方、“単位数確保のため”とした学生が77%もいたが、“新しい知識など得ることができた4.4”、“事象を理解する視点を獲得することができた4.3”と学習到達度自己評価は高く、講義内容は妥当であったと考える。学生からも、「生物基礎しか学ばず不安だったがわかりやすかった、女性のことにしてもたくさん学べた」、「様々な病気について知ることができた」などの意見があった。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるといえる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生の総合評価から理想的レベルに達した学生が70%おり、上記に記載した授業における準備・改善策は成果があったと考える。学生からも「質問がないか聞いてくれた」、「わかりやすい例えで教えてくれた」などの意見があった。次年度もこれらの取り組みを継続し行う。 ②一方、学習量については、「時間がなかった」、「なにをしていいかわからない」などの自由意見があり、加えて再試験を放棄した学生もいる。講義を通して学生の状況を把握するとともに小テストの結果を指標として、成績低迷者に対しては質問を受ける機会を増やす、また、福祉学科の教員と意見交換するなどの方策をとっていく。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の知識を修得するという目標は、概ね達成できた。理想的レベルに達した学生が、昨年度より多く見られたため、改善策として成果が得られたものは継続し実施する。また、日々の授業姿勢から学生の状況を把握し、学習に消極的な学生には対応を考えていく必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度あったグループワークに関して、グループに一つの評価点を与える形が評価の公平性に不満が出ていた点を鑑み、事後テストの形での理解確認を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価の平均値、中央値から、やや達成されたとみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全学対象の教養科目という位置づけであり、カリキュラム上の他の科目との関連性はあまり高くない。そういった経緯もあり、学生の受講目的も大半は単位数確保であり、評価は難しいところではあるが、内容的にはシラバス通りに進められ、達成度評価からも一定程度知識理解を進められたと考えている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業資料をPowerPointファイルの形で配布しており、またシラバス上でも復習方法を書いていたため、自由記述で復習の方法がわからないため復習しなかったという学生が相当数いたのは予想外だった。授業の中でも指示するようにする必要がありそうだ。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年度と比較すると、グループではなく個人に課題を課したことで評価の公平性に関する疑問が出なくなった点はよかったと考えている。全体的に、そもそも内容理解のモチベーションが高くない状況で履修するケースが多いため、より興味を持ってもらいやすくなるよう配慮したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	SNSの発展を見るにつけ現代社会は情報過多のストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、私の専門である生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。ここ数年の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度に引き続き、全体を通して達成された。その根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだことが推察された。また学生の授業評価アンケートの記述にも例年に見られる「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、例年みられることの多い感想。「質問の回答の時間が一番ためになった」「心理学もそうだがそれ以外の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良い。については今回の調査からはまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして「予習の課題設定」を今後さまざまな試行をしてその効果を継続して吟味していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。例年のことであるがその学生への注意の仕方に工夫をくわえたい。集中力を継続させる効果的な方法は私の中でいまだはっきりしていない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。努力は実ると信じがんばりたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。 ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めている。講義の開始には前回の内容の「キーワード」の復習から行なった。 ③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は79点であった。 ②身の回りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考えているが、学生に随時質問をして授業の理解度を確認しながら授業を進めていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えるのも課題かもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「単位数を確保する」、「資格取得に必要である」がともに50.0%、「関心のある内容である」33.3%であった。この科目はシラバス・イントロダクションにおいて、権利擁護論(3年後期)および司法福祉論(4年前期)で扱う講義内容の基礎となる旨を述べている。しかし、担当教員以外の教員もこの科目の履修を勧め居ているにもかかわらず、時間割の影響で、履修者が昨年度の2割にまで大幅に減少してしまったことが極めて残念である。保健福祉学部3学科同時開講(ただし、栄養学科は今年度の履修者なし)の科目のため、福祉に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は70.55点であった。講義終了後に学生が提出したコメントも成績評価の対象とした結果、再試対象者は0名、理想的レベル(80点以上)に達した者は3名であった。学生による到達度自己評価については、「自分なりの目標を達成した」の平均値は3.7、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値はともに3.6であった。そのほかの項目は3.1-3.3であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」「司法福祉論」で学ぶ内容の基礎となる。また、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、人々を総合的に理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.7、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.5であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均値が2.9とやや低いですが、これについては、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。また、今年度から質問、感想などを学生が記入するコメント用紙の配布を開始したが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は3.6であった。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は6名、全く復習をしなかった学生は6名で、最低1度は予復習を行っている学生は4割にすぎない。授業以外に学習していない理由として「特になかった」、「時間がなかった」という意見が見られた。なお、学生からの意見はとくになかった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。しかし、法学の内容は社会福祉士・精神保健福祉士指定科目と密接に関連があり、履修していない学生からも「履修したくてもできなかった」との声もあったことから、今後は福祉学科の学生がこの科目を履修しやすくするための配慮を大学に求めたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	福祉学科の教科書「Basic Faster Reading」は多分野の記事を取り上げた構成になっており、ヒューマンサービスの専門家を養成する教材として適していると思われる。英文や語彙の難易度も学生の学力に適しており、取り上げられている話題も取り組み易いものとなっていた。そのため和訳の予習については、意欲的に取り組む学生が多かった。和訳の予習は、準備した予習用紙を学生に配布し予習を徹底化した。予習用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で予習用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正、加筆を行った。授業では難易度の高い英文の文法や語彙の解説を同時に行った。予習用紙は授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は87点、再試対象者は0名であった。標準偏差値はSは55名、Aは13名、Bは7名、Cは3名であった。概ね高得点者が全体の約8割強を占め、極端に点数の低い学生はいなかった。必須科目であったため、学生も真剣に授業に取り組み、授業内で単語の小テストを行い、確認作業を行ったことが期末テストの結果として表れたと思われる。DPにおいては「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」の項目では約半数の学生が評価している。しかし、専門分野に関する設問では中間値の評価を示す学生が多く、職業倫理や職業選択の項目では約2割の学生が低い評価を示した。これは福祉学科の学生として、専門分野への関心が高まり、英語学習の重要性という意識が希薄になると同時に、英語に対する関心や興味に個人差が出てくる結果と思われる。しかし、福祉学科のCPに明記されているように「豊かな人間性と幅広い教養を身につける」理念として、語学学習は必要不可欠であると考えられる。そのためには、継続的な学習姿勢を身につけさせ、興味や関心を持てるような指導を行うことも必要であると感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性：福祉学科のCPに明記されているように「豊かな人間性と幅広い教養を身につける」理念として、語学学習は目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP行動目標からみた内容的妥当性：DPの特徴としては学期末の試験結果からも明らかなように、到達度自己評価も全体的に高い傾向にある。教科書の難易度、取り上げられた話題への関心度、予習の義務化、語学学習への意欲等が総合的に授業への高い評価につながったと考えられる。DPの「職業選択の参考」では高い評価を示す学生と低い評価を示す学生がおり、質問の趣旨を理解することに個人差がかなりあったと考えられる。福祉学科における英語学習の観点から、DPの「職業倫理」「職業選択」の項目には質問方法の工夫が必要と思われる。しかし、全般的にクラスの雰囲気は良好で、真面目に英語学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価：「テスト、レポート、提出物の評価基準」「学習の範囲や課題」「説明の理解」は約8割強の学生が高い評価を示していた。これは予習の徹底を図り、予習用紙の提出を義務づけたことが評価につながったと考えられる。②学習量の評価：大多数の学生が予習に時間をかけていることがわかる。特筆すべきは大多数の学生が復習にも時間をかけていることである。真面目に熱心に学習に取り組んでいる姿勢がうかがえる。③学修のための情報利用、図書館利用：シラバスを参考にした学生は約4割にとどまっていた。また図書館の利用者も3名にとどまった。多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今回の学生評価全般およびCPから、福祉学科の学習は専門的な領域の習得のみならず、現実の事象から学べべき事、また学ばねばならない事を英語学習とリンクさせて学生に指導することの必要性を強く感じた。更に英語学習としては学生数が多いために、英語力や興味にばらつきがあるが、これをまとめより満足度の高い授業を提供し進めるかが課題となると感じた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	納富 末世

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をアンケートの数値より確認すると、「必修科目である」54%、「資格取得に必要である」59%、「関心のある内容である」2%、「単位数を確保する」2%となっており、本科目を避けては通ることができない学生が多いが、いずれの動機であっても学習効果を最大限に得る必要があると感じた。 ②英語に対して苦手意識をもっている場合は、苦手とする文法事項について、シラバスに記載したように個別に課題を出すことで苦手意識をできるだけ解消できるようにした。 ③授業においては、学生の興味関心および学習意欲を喚起できるようにと、毎回の授業で可能な限り全員に質問を投げかけることにより、学習準備の効果と学生の理解度を確認した。 ④学習準備として、苦手得意に関係なく取り組める単語の意味および読み方の確認、英文の内容把握と音読練習を行うことで授業の学習効果の向上を意図した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75点(100点満点)であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したことを評価したい。理想的レベル(80点以上獲得)に達したものは16名おり、今後はこの人数を増やしていきたい。知識理解および技能表現に関しては、リーディングテストの平均値が3点(5点満点)および単語テストの平均値が14点(15点満点)となっており、単語テストは高数値であったが、リーディングの数値に伸び悩みが感じられた。これは授業内でも感じられたが、英語を読む際には、どうしても自信のない様子になる学生が少なくない。語学の授業であるため、声を出す練習が不可欠であることを今一度、学生に浸透させる一方で、声を出すには心を開ける環境が必要であることから、学生が心を開いて積極的にのぞめる授業作りを自身の課題とする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今回、受講動機には「必修である」「資格取得に必要である」「関心のある内容である」「単位数を確保する」といった項目があげられた。いずれも最大限の学習効果を得るに値する動機ではあるが、実際には「単位数を確保する」ために受講する学生と「関心のある内容である」ために受講する学生の学習動機には差があることを認識する必要がある。英語に関心をもち、また、英語が得意で自らの語学力の向上を図るために授業を受ける学生もいれば、英語が苦手な英語学習は最小限にしたいと願う学生といったようにさまざまな学生がいる中で、本科目での英語学習とそれぞれの人生設計に分断が生じないよう、現段階で福祉系の職に就くか否かを含めて学生が自分の将来をどのように考えているのか等をたずねながら、本科目で努力し、獲得したことは今後のどのような進路においても活かせるのだということが学生に伝わるようつとめて授業をすすめた。アンケートには「職業選択の参考になった」という回答者が35名(38人中)という数字もあり、試験の結果においても、受講動機に関係なく学生は一定の成績をおさめていることから内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業において図書館やインターネットを利用をした学生がほとんどいなかったため、来年度は図書館やインターネットを使うための課題を用意したい。また、意見としては「何をしたいかわからなかった」というものがあつたため、授業中準備から授業内でやるべきこと、さらに授業後にやるべきことを具体的に明示していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「必修および資格取得に必要である」ということが本科目の主な位置づけから、アンケートの数字を見ても毎回の授業で準備をしてきた学生数は38名中34名と多く、その結果が知識の達成度につながったと考える。ただ、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生数が11名に留まっており、学習の幅を広げることができなかった。来年度は、学生の知的好奇心や学習意欲を刺激するテーマをできるだけ多く授業でとりあげて効果的な学習法の例を示し、自主学習と授業準備をシームレスにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の80.2%を除いて、③「関心のある内容である」は20.0%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてももう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「86.5点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.3点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.3点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書 館、インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思 われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次 年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がで ていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを 学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成 できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学 習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた 内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、 身につけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。また受講動機において、50%以上の学生が「関心のある内容である」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期的に行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出してテスト後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。到達度自己評価においては、多くの項目において平均値・中央値が3.0以上であり、教育目標はやや達成されたと思われるが、多くの学生が韓国文化やカルチャーには大変興味をもち、韓国を理解しようという強い意欲はもっているものの、語学の学習には苦勞した学生が多かったように思われる。ただK-POPの歌詞を自分で書いたりするなど、「授業の課題以外に学習に取り組んだ」(学習量の評価)人も半数程度おり、予習復習をしていた学生が多かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が20.5%、「単位数を確保する」が73.5%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②Word、Excelの基本的な事項の理解度を問う小テストを実施した。 ③PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均値は82.6であり標準偏差は8.2であった。成績は課題(30%)、小テスト(30%)、プレゼンテーション(40%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているため良いとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.0～4.5と少し低い評価の項目があるが、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が4.2、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.5と非常に高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。 ②学生の意見として、「説明がはやかった」というものがあつた。説明について後で参照できるように改善できる様にしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返って見たとき、昨年度同様学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るような時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第8回までは基礎技術の習得を行い、第9回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。 情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。 また、後半のグループワークでは、創造性やコミュニケーション能力の育成といったグループワーク一般の目的に加え、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。 授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「必要ない」という記述が多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	ソフトウェアの使用にあたり、その使い方を自分でネットで調べて使う、という課題において、使用方法の説明をしてほしいという要望がアンケートに記入されていた。 ソフトウェアの使用方法等については、細部まですべて授業で網羅できるわけではないので、自分で調べて使用する課題を設けているが、その意図がしっかり伝 わっていなかったようなので、今後は周知に努めたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得 点であり、高い達成度が得られた。授業アンケートの受講動機において、将来への展望に欠ける回答が多いため、受講動機に対してより訴求性のあるシラバスに改 善し、授業内容そのものも、より学習動機を理解しやすいものとした。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の6割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「必修であること」が主要な動機である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点が3.7、中央値も4.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の3番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 また、Webページの作成についても、調査した結果をグラフや表を交えつつ、わかりやすく伝えることに重きを置いた。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたため、今後もぜひ継続していきたい。□
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が3.0以上であることから、授業の進め方に問題はないと言える。 平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。 また、グループでの活動と発表を取り入れることにより、学生の主体的な参加を促した。 このことは、「(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.7(中央値4.0)と高いことにつながっていると考えている。 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除するため、H30年度からWeb上でのプログラミングエディタにおいて自動補完機能を導入し、入力時の負担を軽減できるようにしている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れていると考えている。 * 課題 * 比較的順調に課題をこなせる学生がいる一方、コンピュータに対する苦手意識をもつ学生が一定数いるため、能力やリテラシーのばらつきをどのように軽減していくか、レベルをどのあたりに設定するかが、今後の課題である。 「保健だよりなどをつくりたかった」という自由コメントがあった。今後は自由課題のテーマ範囲をより柔軟にしたり、演習課題をそのような内容にするなどの工夫が必要であると感じた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。 また、昨年度は、福祉学科の受講できていない学生から、福祉学科の学生として、興味がある講座名で受講したいのですが、他の教科(教職の必修科目)と重なっていて、どうしても受講できない、という意見をたくさん頂いていた。しかし今年度に関しては、他の講義と重なってはいしたが、受講生は多かった。多いから良いというのではなく、他学科との合同講義であるので、更なる工夫が必要と感じた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、本学、九州歯科大学、西日本工業の3大学(5学科)による合同授業である。学生の受講動機には、「単位数を確保する」(69.0%)、「関心のある内容である」(21.7%)となっており、やや学習意欲の低さが伺える。授業内容はアクティブ高齢者の支援について講義(4コマ)とPBL(事例検討4コマ)を行うものである。講義では、介護保険制度の概要について教授する中で、他大学・他学科の学生も内容を理解できるよう解説方法や提示資料を工夫した。また、PBLでは、チューターを担い、3大学の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の教育目標について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う41.7%、わりにそうだと思う41.7%)であり、目標を達成できたと言える。思考判断(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う41.7%、わりにそうだと思う45.8%)であり、目標を達成できたと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(かなりそうだと思う41.7%、わりにそうだと思う45.8%)であり、目標を達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う37.5%、わりにそうだと思う50.0%)であり、これも目標を達成できたと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要とする技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う41.7%、わりにそうだと思う45.8%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う37.5%)となり、目標を達成できたと考える。 以上のように、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても、本科目の教育目標は達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の結果からも、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は3大学(5学科)の学生が各分野の専門性に基づき協働でPBLに取り組むものであり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」は、「していない」(83.3%)であった。また、「この授業ではインターネットのホームページを検索し、利用した」は、「利用した」(54.2%)と、約半数が利用していた。本科目はPBL形式であり、特に学生の主体的学習態度が求められる。今後はPBLで活用できるネット情報を具体的に提示することで、学生の学習意欲をさらに高めることができると思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標は達成されたと考えるが、学生の主体的学習態度の涵養という点ではやや課題が見られた。本科目は大学の枠を超えて複数の教員が担当しており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で十分に共有し、より教育効果の高い授業を目指したい。 ※次年度以降は、本学のみで実施予定。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度から新たに開講される科目であるため、手探りで講義の内容を準備した。受講動機を見ると「単位数を確保する」が最も多いが、「関心のある内容である」とする学生も36.4%と比較的多いことから、ある程度、学生のニーズに合った内容を準備できたと考えられる。準備に際しては、類似する科目と内容が重複しないように心がけ、必修科目である「キャリア開発」を補完するような内容となるよう考慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						
アンケートの結果で、「自分なりの目標を達成した」や「職業選択の参考になった」の項目において半数以上が4または5としていることから、学生にそれなりの意義がある内容だったと受け取ってもらえたようだ。ただし、学習量や図書館利用などの項目に関しては全体的に評価が低くなっており、学生の自主的な学びを引き出すまでには至らなかった。単位数の確保という目的で履修した学生が多く、専攻する学問に直結する内容の科目でもないためやむを得ない面もあるが、もう少し、主体性を促す努力をするべきだったかもしれない。						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「キャリア形成支援」というカテゴリに含まれる数少ない科目のひとつなので、単位数の取得を目的とした履修が多くなることはやむを得ないであろう。到達度自己評価の(4)から(7)の専門分野への寄与に関する項目についても、科目の性質上、評定が低いことは当然である。(1)(2)(10)の評定が悪くないことから、妥当な内容の講義を提供できたと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述の意見から、少人数での演習形式の授業をイメージして履修した学生が一定数いたことが伺える。初めて開講される科目であったので、履修者数の見当 が付かないまま講義が始まったが、蓋を開けてみれば履修者は100人を超えていた。また、履修者の多さに加えて、8回という限られた講義回数の科目でもあるた め、学生と相互作用を取り入れた形式にするのは難しかった。次年度以降は、履修者数にもよるが、学生と議論できるような進め方を検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は開講初年であったが、一定の評価得ることはできた。次年度以降は、キャリア支援という本科目の目的を踏まえ、学生がどのようなニーズを持っているの かをくみ取りながら、より充実した内容を考えたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	一年前期開講、必修、演習科目であるため、 ①授業計画、達成すべき目標を分かりやすく伝えるよう努めた。 ②授業の終わりには毎回、各授業の目的を記した用紙にて小レポートを提出させ、学生の意欲、態度、理解度の把握に努めた。 ③②を踏まえて次の授業での演習方法や目的説明のあり方を調整するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生の最終的な成績の平均値は84点であった。 殆どの者が標準レベルに達した。学生による授業評価においては、全員が「自分なりの目標を達成した」と答えており平均点は4.3、中央値は5.0であった。1年前期の時点でこのような自己評価ができたことは評価できるものと考えられる。また、知識獲得、視点獲得ができたと答える者が大半であり、専門分野との結びつきを意識しながら取り組むことができたようである。また、意欲のみならず「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.7、中央値は5.0であったことから、スキルを獲得したと強く感じられる学生が多くみられたことは、目標達成に繋がったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、一年前期開講の卒業必修科目である。大学の教育方針、授業形式、人間関係に慣れ、一年後期からの「専門科目」の演習群に導入していくための重要な位置付けがあると考えられる。 ②成績評価からは、目標は概ね達成されており、学生の自己評価では達成できたと評価する学生が多くみられたことから、今後の学生生活、専門科目における講義、演習の履修に大いに役立つ体験が得られたと考えられる。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、全5項目において「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」とすべての学生が回答しており、平均値は4.3～4.5であった。授業の進め方は適正 であり、来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図っていききたい。また、「質問を受け付け、答える機 会」について、少しそうでないと思うにつけた学生が1名みられたことから、学生の様子をより注視していききたい。 学習量については、30分以上の予習時間を週に1回以上取った者は8名、30分以上の復習時間を週に1回以上取った者は8名と其々半数程度であった。また、自発 的学習に取り組んだ者は0名であった。自由記述による学生からの意見に「課題がなかった」との意見が見られたが、演習であるため、出席して活動すること自体が 重要であると伝えており、「授業内で体験したことを内省し、自己理解を深めていくこと」を目的にした課題提出を求めたためと考えられる。「取り組み方が分からな かった」「することが分からなかった」という学生もいたが、「この授業のおかげで友人がふえました」という意見があるように、入学や引越し等による新たな人間関係 の構築の求められる1年前期の時期において、授業で得た知識や技能を日常の実践に生かしていることが想像される。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね達成できたと考えられる。 来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図っていききたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	対人援助の専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係を作る力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例:「他者の意見を批判・批評しない事」を約束とするなど)に努めた。また各自の内省力を高めるために、グループ討議だけでなく、毎回振り返りシートを作成し、記入させた。1年前期の必修科目であり、コミュニケーションや自己表現の力が求められる授業であるため、学生の学習準備性にはばらつきがあると想定されたが、なじみのあるゲームやエクササイズを準備したり、「自分なりの変化」に目を向けるような介入を行うことで、これに対応した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は86.88(±5.40)であった。学生の自己評価では全ての項目においてその平均値が3.8-4.2と総じて高く、本演習の目的であるコミュニケーション能力の向上にはつながったと考えられる。従って本科目の教育目標は一定程度達成できたものと評価している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生は「必修科目である」ことを受講動機にしている者が100%であったが、「関心のある内容である」と評価した者が6.3%おり、前年度に比べると一部関心を持って授業に臨んだ学生がいる事が示唆された。しかし学習到達度の自己評価の平均値がいずれの項目においても高い(range:3.8-4.2)ため、自分の能力やスキルの向上を実感できたものと考えられ、内容的妥当性はあるものと評価している。一方DP及び行動目標という視点から検討した場合、個人間でばらつきはあるもののDP4.5とも一定程度達成されていると評価できるため、方法的妥当性も有しているものとする。ただし自由記述において「ほかの班にはない課題が多く、キツかった」「感想やレポートを書くのが多かった」などが見られた。振り返りをする・課題を出すことが損と捉えているような意見が見られたことは残念であった。誰のために何のために授業を受けているのか、といった視点に立って考えてほしいものである。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、全ての項目の平均値が4.2-4.5と高く、演習という形態の授業であること、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果であると考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の到達度評価、授業の質評価のすべてにおいて高い数値を示しているため、方法論的には大きな問題はないと考えられるが、先述のように振り返りを行うことや課題があることが損であるかのように評価している学生がいる事については非常に残念に感じた。本科目の目的をしっかりと認識したうえで授業に臨んでほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」100%、「関心のある内容である」6.7%であった。本科目は、1年生前期開講科目である。そのため、科目名から講義内容をイメージできない学生もいると考えられるため、1回目の講義では、到達目標や内容等を口頭および文書で伝えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価において、10項目中3項目は平均値が4.6点であり、5項目は平均値が4.4点であった。本科目で重視している「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均値4.6点であり、68.8%の学生が「かなりそうだと思う」と回答していた。また、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」および「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」は、平均値4.6点であり、62.5%の学生が「かなりそうだと思う」と回答していた。さらに、再履修対象者もいなかったことから、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性: 本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性: 本科目は、ヒューマンサービス専門家に必要な態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」平均値4.7点、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」平均値4.6点、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」平均値4.3点、「説明は理解しやすいものであった」平均値4.0点、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」平均値3.9点であった。次年度の本科目のオリエンテーションでは、評価基準に関する説明を丁寧に行う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績および到達度自己評価の結果から、教育目標を達成できたと考えられる。学生からの意見では、「人と関わることの楽しさを感じた」「どんなことをするのが楽しかった」などが挙げられた。本科目に積極的に取り組むことが出来たと考えられる。来年度も学生が主体的に取り組むことが出来るワークや課題の実施後には、学生間と教員で学びを振り返る時間を確保する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次の必修科目であり、受講動機も「必修科目である」が100%となっている。対人援助における最も基礎的なコミュニケーション力を養う演習科目であり、自己表現や他者と協働する力を養うことが本演習の主眼となっている。そこで演習ではグループワークを通して、発表する機会や協力して1つの作業を行う機会をできるだけ設けるようにした。また初年次の演習科目であるため、楽しみながら演習に参加できるよう、ゲーム性のあるワークをできるだけ取り入れるようにし、仲間づくりができるよう努めた。毎演習の最後には必ずふり返りの時間を設け、学生が内省しながら学びを深める機会をつくるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は83.4点、中央値は80点、到達度自己評価の「自分なりの目標を達成した」の平均値は4.5点であり、目標は達成されたと考える。到達度自己評価を見てみると、DP4に関わる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は平均値4.5点、「職業選択の参考になった」は平均値4.3点、DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は平均値4.0点、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均値4.8点であり、本演習で意図されている目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「社会福祉を学ぶための土台づくり」として福祉基礎科目に位置づけられている。4. にも記したように、内容は概ね妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からにても内容的妥当性 4. にも記したように、概ね妥当であったと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、各項目の平均値が4.3-4.8点となっており、概ね問題なかったと考える。「学習量の評価」、「情報利用」、「図書館利用」の各項目については、コミュニケーション中心の演習であるため、いずれも低い値であった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の目標達成状況より、目標は概ね達成されたと考える。学生の目標達成にはグループの質が大きく影響するため、次年度も協働して学べるグループづくりに努めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は1年生前期の開講科目であり、これから対人援助職としての専門性を身に付けていくうえで必要となる基本的姿勢を形成する時期である。そのため、授業内容としては、対人援助職としての基礎となるような他者とのコミュニケーションについてや、対人関係における自分自身の在り方について、様々な体験を通し気づきを得ることができるようなワークを行った。 受講動機は、「必修科目である」が14人中14人、「単位数を確保する」が14人中2人であり、学生は自発的な意欲関心による履修というよりも、必修科目として履修していた。受講動機はあまり高いとは言えないため、授業で体験したワークが、どのような意味があるのか等、ワークの意図についても説明を行い、学生が今後の専門的な勉強と結び付けて考えられるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な学生の成績の平均値は、84.3点であり、受講者全員が80点以上の成績となった。そのため、受講生は学習のレベルが理想的レベルに到達したと考えられる。 到達度自己評価を見ると、特に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目について、平均値が4.6と高い値となっていた。そのため、学生自身が他者とのコミュニケーションについて考え、新たな他者とのかわり方について体験し、身に付けられた感覚を持つことが出来たと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は対人援助職としての専門性を身に付けていくうえで必要となる基本的姿勢を形成するねらいであるため、1年前期での開講が妥当であると考えられる。また、ワークを通して他者や自分自身について考える体験を重要視しているため、協調的な言動(DP4-2)や自分の課題を理解し自己研鑽をする姿勢(DP4-3)、他者と関わる基本的なコミュニケーションスキルの形成(DP5-1)といったDPの設定も妥当である。 授業内容は、上記に示したような受講学生の学年および設定されたDPの規準と関連しており、妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、授業の予習復習をした回数が0回である学生がほとんどであった。また、自発的な学習への取り組みをした学生もいなかった。自由記述欄には「することがなかった」「何をすればいいかわからない」との記述があった。 本講義は、授業時間中に他者と関わるワークへの参加と、その振り返りを行った。振り返りを授業内に即時的に実施したほうが、ワークでの学習が定着しやすく有効であると判断したためである。また、本講義では知識の習得よりも他者とのかかわり方の姿勢を重要視しているため、授業時間外に授業内容に関する予習復習や、課題に取り組む必要性はなかったと考えられる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義の目的とする他者と協調的に関わる体験や、自分の課題を理解し自己研鑽をする体験、他者と関わる基本的なコミュニケーションスキルの形成についてはおおむね達成できたと考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
福祉入門	1	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2018年度より新たに1年次必修として開講したものであり、福祉課題への関心や専門職への動機づけを主な目的としている。授業は、専任教員(5名)と福祉現場に従事している外部講師(5名)で担当している(教員および外部講師は昨年度と同じメンバー)。 学生の履修動機として「必修科目である」(100%)が見られる中、授業では教育目標を達成できるよう、福祉課題の実態や近年の政策動向、福祉現場における支援の実際などについて教授した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均84.3点であり、この点では教育目標は達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う38.9%、わりにそうだと思う47.1%)であり、目標は達成されたと考える。「思考判断」(DP2)は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う27.3%、わりにそうだと思う57.1%)となっており、目標は達成されたと考える。「意欲関心」(DP3)は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(かなりそうだと思う36.4%、わりにそうだと思う48.1%)であり、目標は達成されたと考える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う18.1%、わりにそうだと思う58.3%)であり、目標はやや達成されたと考える。 この他、学習量の評価(予習0回76.6%、復習0回74.0%)や図書館の利用状況(図書・雑誌を利用しなかった85.7%)を見ると、学生の主体的学習態度の点でやや課題が残ったが、総じて教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の平均点は84.3であった。また、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の「意欲関心」を見ても、本科目の教育目標は達成されていた。以上のことから、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラム上の位置づけ 本科目の主要な教育目標は福祉専門職への動機づけであり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	既述の通り、教育目標が達成された一方で、学習量や図書館利用など、主体的学習態度と言う点では課題が残った。本科目は専任教員5名と外部講師5名による オムニバスであり、今後、明らかとなった課題を教員間で共有し、改善策を検討していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度同様に、次年度も教育目標を達成できるよう、教員間で授業内容・展開方法等について十分に検討・共通していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子ども家庭福祉論	2	前期	必修	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の自由意見の中に「何が大切かわからなかった」があったが、国家試験において大切なことはその都度授業で話しており、教科書の該当部分についても言及しています。また何が大切かというのは、根底的な問題であり国家試験に出題されたとかされそうというより、子ども家庭福祉の全体像を理解してほしく授業中にどう考えるか？あるいは関心のある学生はぜひ図書館等利用して、さらに学びを深めてもらいたい旨伝えてきました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された		どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終テストではテスト範囲を文書化し配布した。成績の分布については明示しないが、平均点は6割を超え、知識理解レベルではやや達成されたと考えられる。授業で使用したパワーポイントについて、読みづらいという意見があったが、一部学生は授業終了後に該当箇所の確認に来ており、意欲関心が見いだせた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容としては妥当であったと考えられる。
--	----------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、定型的な制度論の解説では、不十分であるため、その時々 に発生する制度の変更や、関連する社会事象について言及するため、予定 配分通りには進行しないことがある。レジメや試験の範囲についても意見があ ったが、授業開始時に学生に何故こうしているのかについてのいきさつを説 明していたにもかかわらずこういった意見があるので、再度説明したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教科書は制度的な解説が示されているので、国家試験受験希望者は復習してほ しい。この授業は制度の説明もさることながら、個々の人々の背景となる事 象やその折々の心理・社会過程についての理解が不可欠であり、次年度の授 業でもこの点を踏まえて、学生に伝えたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医療福祉論	2	前期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	一般市民としての教養ではなく、利用者、当事者、患者への関わりを専門職として行うならば、興味を持ち、理解し、知識を蓄えることを願って具体的な社会事象を取り交ぜ新聞や資料を配布指導したが、受講動機で、「関心のある内容である」きわめて低かったがインターネットの活用は僅かではあったが調べ学習する者がいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価DP一応の理解は出来るものの、「まあそう思う」が主な回答になっており、評価は高いとはいえないが学んだ成果として到達できたと考ええる。。しかし。「知識を確認したり、新たに得ることができた」と答える者がいたことは喜ばしい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価DPの平均値が3.5を超え一応の理解は出来るものの、「まあそう思う」が半数を占め評価は高いとはいえないが目標は到達できたものだと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	シラバスに沿い、教科書を中心に進めたものの、結果として1セッションごとに講義が 終わらず、理解しづらかった点は反省する。しかし、実践的な話に対しての興 味を持ってくれる学生もあり、今後は話とともに区切れ良く講義を進めて行く ことにする。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の進路がいずれの領域になるにしても、医療は切り離せるものではなく、むしろ 学び得ておくべきことだと思う。可能な限り実践現場における問題や起こりうる ことなどに対し即応できる知識の習得を考えると、話が多くなってしまったこと に対する反省とともに今後においても具体的に学ぶことがどのように反映する のかを指導して行きたい。数は少なくとも学習達成していることで評価されて いると考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」21.4%、「関心のある科目である」21.4%であった。本科目では、相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方法などについてロールプレイや事例を用いて学ぶ。受講動機が「必須科目である」が多いため、受講した学生に関心を持ってもらうことが必要である。そのため、オリエンテーションや講義内において、本演習により得られた学びが将来の仕事にどのように活かせるのかについて説明するよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では、10項目中9項目において平均値が4.5点以上であった。特に、本科目における学生が到達すべき行動目標とも関連する「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.8点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.7点、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」4.7点であった。また、再履修者も0名であった。これらのことから、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDP1における内容は妥当であると考えられる。 到達度自己評価から、内容的妥当性に問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、全項目が平均値4.6点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」平均値4.9点、「説明は理解しやすいものであった」および「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は平均値4.8点であった。今後も、学生が主体的に参加することができる授業を実施していく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの結果および成績から、教育目標を達成することができたと考えられた。本科目は、相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方法などについて学ぶ科目である。昨年度は、到達度自己評価の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が3.8点であり、他の項目に比べ評価が低かった。本年度は、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.6点であった。今後も学生が職業倫理や行動規範について理解を深めることが出来るような課題を活用していく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目及び必修科目となっている。授業評価アンケートにおける学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」(100%)、「資格取得に必要である」(41.7%)、「単位数を確保する」(16.7%)の順となっており、授業への関心・動機が低い状況が見受けられる。 本科目は、対人援助職に不可欠な基礎的コミュニケーション能力や面接技法を主な内容としている。したがって、学生の学習への関心・意欲を高められるよう授業展開を工夫した。具体的には、支援事例の検討、ロールプレイ等を活用しながら参加型の授業となるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度評価から見てみると、「知識理解」(DP1)については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う66.7%、わりにそうだと思う33.3%)とであり、目標を達成したと言える。「思考判断」(DP2)は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%)であり、目標を達成したと考える。「意欲関心」(DP3)は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う33.3%)であり、目標を達成したと考える。「態度」(DP4)は、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う33.3%)となっており、目標はやや達成されなかったと言える。「技能表現」(DP5)は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う25.0%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う33.3%)となっており、目標をやや達成したと言える。 一方で、学習量の評価(予習0回:50.0%、復習0回41.7%、授業の課外以外の学習なし:100%)や図書館の利用状況(利用なし93.3%)からは、学習時間の確保や学習意欲の向上の面で課題があることがうかがえた。 以上のことから、全体として十分に教育目標はやや達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の学習意欲向上への課題は見られるものの、授業評価アンケートにおける学生の到達度評価からもDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は対人援助の基礎的技術(特にコミュニケーション技術、面接技術)を修得する科目である。これらは3年次開講の相談援助実習において不可欠な技術であり、CPおよびカリキュラムマップ上に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	既述のように、学生の受講動機の面からは課題があると言える。また、図書館の利用状況や予習・復習時間からは、学習量の確保といった課題も推察される。昨年度に引き続き、学生の動機づけや自発的学習態度を促す授業内容・展開を検討する必要があると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目における教育目標はある程度達成されたと言える。しかし、学習への動機づけや学習量の確保と言った課題も明らかとなった。こうした状況はここ数年の課題になっているため、改善を要すると考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①必修科目であり相談援助演習を担当する教員と同じ内容で演習を行ったが、内容が難しい部分については説明を施す等した。 ②自由記述に「参考資料や図書を読んだ」と答えた者がおり調べ学習をしたものと思われる学生がいたことはよかったと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	相談援助演習が講義科目ではないため、演習時間内において学生との関りが中心となる。その為、到達度自己評価、授業の質評価において平均点は高く、学生が学び得ているものとする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「まあまあそうだと思う」以上の評価がされ平均値も3.8以上であった。自由記述でも「基礎から教えてもらった」「たくさんの知識を知ることができた」などの意見があり学生にとっての成果が見られたと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	他の科目との関連性を示し、今学んでいることがどのように関わるのかを調 べ学習などで自己学習をさせるように取り組む必要があった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	複数の教員が担当する為、同様のことを行っても同じ評価は出ない。今後指導方法についての整合性を図りたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目であり、学生の授業への関心・学習準備性にはばらつきがあると考えられる科目である。一方で、対人援助職をめざす学生にとって重要となるコミュニケーション力や面接技法について習得する内容であり、学生の学習意欲を高めると同時に実践の基礎となる力を習得できるよう、ロールプレイの実施、具体的な支援事例に基づく事例研究を行うなど、教材の選定や授業の進め方を工夫した。特に、学生一人ひとりがグループディスカッションにおいて意見を表明し、共有することを通して、コミュニケーション力や表現力を高め、職業倫理や行動規範についても学びを深めていくことを重視した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価項目の中で「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.1と高かった一方で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が3.6～3.7と低かった。グループワークやロールプレイング、グループディスカッションなどへの学生の取り組みの様子や課題シートの記述内容などを総合するとある程度の成果が得られ達成されたと考えるが、学生の到達度自己評価にそれが表れていないことは反省すべき点である。学生自身が学びの成果・自身の成長を実感できるような授業の進め方について改善を考えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は福祉専門科目の導入にあたる科目であり、必修科目である。学生の授業への関心や学習準備性にはばらつきがみられたものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP.行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見表明をしやすくするために、授業の説明の中でポイントを明確にすること、議論の焦点を絞ること、各自の意見を引き出すような工夫を加えることによって、授業の回数を重ねるごとに学生間の議論が深まり、様々な意見が出されるようになった。グループディスカッションにおいて多様な意見が出されることの重要性、他者の意見に耳を傾けることがさらにディスカッションを発展させていることなど、何気なく行われている行為の中に、コミュニケーションの重要な要素があることを捉え、評価することを大切にして授業を進めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成度自己評価の結果と学生の授業への取り組みや提出物から、教育目標はある程度達成できたと考えられる。さらに学生の学びを深める意欲を高め、自発的学習に結びつくよう工夫していくことを来年度の課題としたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた社会福祉の初歩的な専門的知識、技術を習得するための科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%であり、「資格取得に必要である」は7.1%、「関心のある内容である」は0.0%で、相談援助職へのモチベーションの低さがうかがえる。本演習では、グループワークやロールプレイを用いた体験学習や、事例を用いた援助方法の検討を行う。できるだけ実践場面を想定し、ロールプレイを多く取り入れた。またそれらがどのような場面で用いられるのか、視聴覚教材等を用い、実践とのつながりが意識化できるよう試みた。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントを次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は81.4点、中央値は80点、学生の到達度自己評価は「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.0点となっており、目標は達成されたと考える。DP1にかかわる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は、4.7点、4.3点で、達成されたと考える。次にDP2にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.3点、4.1点であり、達成されたと判断した。最後にDP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.6点、4.5点であり、達成されたと判断した。「職業選択の参考になった」も平均値4.3点であり、受講動機は低かったものの、相談援助職への動機づけを高めることができたと考ええる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士資格の指定科目であり、「社会福祉の専門を学ぶ」科目として位置付けられている。4. にも記したように、社会福祉的な視点や考え方を得たり、専門分野における課題を検討する力や、判断する力を得ることができたという学生の自己評価からは、概ね内容的に妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値4.4-4.7点であった。「学習量の評価」、「情報利用」、「図書館利用」に関しては、いずれも低い回答であった。課題などを通じて、自発的学習をうながしていく必要がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた社会福祉の初歩的な専門的知識、技術を習得するための科目である。4. に記したように学習達成度の自己評価から目標は達成されたと考える。6. に記した授業の質評価より、演習の内容は概ね問題なかったと考えるが、課題などを通じて自発的学習をうながしていくことが今後の課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉に関する制度とサービス	2	前期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①メンタルヘルスの課題を抱える当事者を支える制度やサービスの仕組み等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ②初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③8コマ目には、これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④本講義の特性上、法律上の制度やサービスに係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、88点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベル及び理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した。目標別にみると、知識理解に関しては90%、意欲関心に関する問題は10%であった。知識理解に関しては、法律、制度、サービスの観点からメンタルヘルスの課題を抱える当事者を支える知識について問うものである。精神保健福祉に係る法制度、サービスについては、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、法律、制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目はメンタルヘルスの課題を抱える当事者を支える制度やサービスの仕組み等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2019年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、メンタルヘルスに対する制度・サービスの表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、コミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題と考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.5と全体数値よりも低かった。本年度は、事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、授業の範囲が広いという意見もあり、本科目は法律・制度・サービスといった広範な情報量を取り扱う性質があるものの、より伝える内容の要点を整理して、次年度の講義に生かしていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の基礎を学ぶ位置づけであることから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、後期の精神保健福祉の関連科目（精神障害者の生活支援システム）を通して、事例の検討や演習活動を一部取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学概論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」54.1%、「資格に必要である」40.5%、「関心のある内容である」17.6%、「単位数を確保する」14.9%、「友人が履修している」1.4%であった。1年次科目であるため、まずは資格取得に勧められている科目として受講してみようかという学生が中心であると考えている。また、本科目は学生が初めて心理学の基礎的理論や研究に触れる科目であることから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。授業毎に提出させている小レポートに挙げられた質問や疑問は、次回授業にてフィードバックを行い、学生の関心に応じるよう工夫した。毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.6点であった。80点以上の理想的レベルの者の割合は23.2%、60点～79点の標準レベルの者の割合は37.8%であった。再試験で合格した者を含め、91.4%の者は標準～理想的レベルの目標達成ができたと考えられる。 学生の自己評価においても「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は4.1点と高かった。 授業後の小レポートにおいて、積極的に授業参加する姿勢(態度)がみられたが、アンケートの「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目も平均点は4.1であり、授業を通して学ぶ意欲を引き出すことができたことが伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験に必須の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学概論の学習は重要でかつ妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均値は3.8であり、教授内容を質、量ともに概ね適切に伝達することができたと考えられる。「将来に必要な知識を身に詰めることができた」「関心のある科目でとても興味が持てました」という意見も得られた。 学生からの意見に、「復習の時間が長く感じた」とあった。教員としてはこの時間は、前回提出の小レポートを踏まえて解説することで学生の質問に応じたり、学生の誤った理解があれば修正をすることを目的としていた。ただ、「質問を受け付け答える機会が作られていた」に全くそうでない、少しそうでないと答えた者が8名いることから、一部の受講生には、この時間がそういう機能を果たせなかった可能性がある。また、「説明が分かりにくく理解できなかった」という意見があった。理解度には個人差があるため、個別に相談に来てほしいとアナウンスしていたが、意思疎通が不十分であった可能性がある。 予習復習をしていない学生はおよそ60%に上っている。その中には、授業内で理解できる学生と、理解しきれない学生が混在していると考えられる。本講義は、初めて聞く概念や事象も多く大学での学びに慣れていない学生にとっては、大変な授業であるはずであるが、「他の授業の課題があったから」と自発的学習に臨まない学生が76%にも上っている。今後は、さらに授業外での予習復習を積極的に促し、学生の様子を見ながら授業内での復習のあり方、学生との質疑応答の機会を再検討していくこととする。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。 一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、今後そのような学生に対しても十分な学びを促していきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医学総論	2	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	医学・医療に関する基本的な知識は、福祉の仕事に必要なだけでなく、自分自身の健康管理にも重要です。主要な疾患にポイントを絞って、社会福祉士の国家試験問題にも関連させて、できるだけ簡潔に解説を行いました。授業中に折に触れて、「命の大切さ」にも言及したつもりです。 また、授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」「資格取得に必要である」が大多数ですが、受講後の自由記載では「医療の勉強が好きになりました」などに意見もあり、講義をとうして医学・医療に興味をもって下さったことを嬉しく思います。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験とレポートおよび授業貢献度を加味した最終成績の平均値は80点(最高98点、最低点60点)でした。秀:22名、優17名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとは全体の54%でした。全員が60点以上で、標準レベルに到達したと判断しました。 福祉学との直接的な関連が乏しい領域にもかかわらず、期末試験の成績が良かっただけでなく、学生さんの授業態度も良好でした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、いずれの観点においても「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。皆さんが真面目に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力に関する自己評価の達成度が比較的低いのは、座学の系統講義であるのでやむおえないところもあると考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉学科の「専門教育科目」のうち「保健・医療関係科目」に属します。医学・医療に関する基本的な知識は福祉の仕事に必要です。社会福祉士の国家試験にも医学・医療に関する問題が出題されます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、大部分の項目で「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。昨年度は自分の意見をまとめる、発表するなどの学生参加に関する項目の評価が低かったので、今年度はレポートを課すなどを行い、評価の改善をみました。 自由記述では講義内容やスタイルに肯定的な意見がおおく、次年度も基本的に今年度と同様の形式を継続したいと思います。昨年度は教科書をオーバーヘッドで提示したものが見にくかったという意見が多かったので改善をしたところ、今年度はそのような意見がありませんでした。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは半数以下でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数でした。次年度はもう少し課題を増やすことも検討します。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は福祉学科の学生さんにとっては馴染みが薄い内容であったと思いますが、皆さんが興味を持って積極的に取り組んでくれました。約半数の学生さんが理想的レベルに、全員が標準的レベルに到達することができました。 今後の福祉科目の勉強や、将来に福祉現場で働く際に本科目で学んだことを活用して貰えれば嬉しいです。今年度も福祉学科の学生さんに講義が出来たことに感謝しています。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	菊田 彰夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖学	2	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 解剖学では人体の基本構造の理解が求められる。構造名を覚えるのではなく、対象の構造と機能を理解することに重点をおいている。理解を深めるとき、自らが問題意識をもつことを求めている。 ② 対象の構造と機能について、原理を理解し、説明できることを目標とし、暗記に頼らない学習方法を説明した。 ③ 講義1回毎に、重要事項の確認のための小テストを実施し、理解状況を自己確認するようにしている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均値は79.0(±11.1)点であり、全員を合格としたが、基礎的な知識、理解度が十分とは言えない学生もいる。学生の意見でも、「重要なこと」のみの、断片的な知識理解を求めていると思われるものがある。解剖学では、各器官系毎に構造と機能を学んでいるので、学んだことを総合するためにも、講義の受講だけでなく、自己学習が重要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	人体の基本的構造と機能についての知識は養護教諭の職務に必須である。これを自覚し、自ら深めることが求められるが、単位修得のみを目標とし、最小限の学習のみで済ませようとしている学習態度の学生が少なくない。修得が求められる知識量は多く、また複雑であり、講義の聴講および教科書の自習を、問題意識をもち、自覚的、自発的に実践し、より深く理解をすすめていくことが求められる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	複雑で多様な構造についての理解をふかめるために、できるかぎり多くの図を参照できるよう、配布資料とスライドを提供している。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門基礎科目であり、基礎的知識の形成が重要であるが、自発的学習がないと十分な成果は得られない。解剖学の知識の習得が、養護教諭として必修であり、責任があることを理解し、自発的に学習を進めるものとするのが課題である。 毎回の目標をより具体的に示すこと、また、予習課題を提示することとする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	節原 香智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健 I	2	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・一方的な講義形式ではなく、学生が主体的に参加できるように、グループでの活動(KJ法の実施、掲示資料の作成等)を組み入れた。 ・課題に対し、自分の意見を持つことができるとともに、他者の意見を参考にして自分の考えを深めたり広げたりできるように、一人で考え、書く活動を行い、その後、ペアやグループで話し合う活動等を設定した。 ・指定の教科書だけでなく、分かりやすい資料を準備したり、視覚的にも理解が進むように視聴覚機器を活用して授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	どちらともいえない	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○学習到達度の自己評価(中央値4. 0)結果から ・(2)の平均値が4. 1であることから、知識理解(DP1)は達成されたと判断した。 ・(4)の平均値4. 2や(5)の平均値4. 1から思考判断(DP2)は達成されたと判断した。 ・(6)の平均値が4. 1であることや講義が進むに連れて、授業終了後のアンケートに、将来、養護教諭になりたいという学生が増えたことから、意欲関心(DP3)は達成されたと判断した。 ・(9)の平均値が4. 0であることや、授業中の態度に改善が見られない学生がいたことから、態度(DP4)については、どちらともいえないと判断した。 ・(7)の平均値が4. 0、(8)の平均値が3. 7であることから、技能表現(DP5)については、どちらともいえないと判断した。 以上のこと、(1)の平均値が3. 8であったことから、全体を通して、やや達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機では、資格取得に必要であるが82. 8%、必須科目であるが37. 9%と答えている。さらに、学習到達度の自己評価では、(10)職業選択の参考になったの平均値が4. 1であることから、養護教諭の資格取得に必要感をもって受講した学生にとって、養護教諭を職業として選択する際の参考になったことから、本授業は、内容的に妥当であったと思われる。 また、自由記述の意見の中には、授業中に行った演習の中で、自分が養護教諭として子どもに向かい合ったとき(子どもから相談されたとき)の参考になったという感想が書かれていたことから、内容的に妥当であったと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・毎回、次回の授業内容について知らせ、予習してくるよう伝えていたが、学生の課題になっていなかったようである。来年度は、さらに具体的な内容や準備すべきこと等について知らせていきたい。 ・授業で掲示資料の作成を行ったとき、ホームページを指定し、インターネットで調べることを示した。学生もグループの課題をインターネットで調べていたが、アンケートでは、学習のための情報利用や図書館、インターネット等を利用したと答えた学生が少数だったことから、来年度はさらに情報活用能力に視点をあてていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・本年度は、シラバスの作成から関わってなく、直前に講義を引き受けたことから、私自身、準備に不十分な点が多くあったことが反省点としてあげられる。来年度は、本年度の反省点を踏まえ、養護教諭の資格取得を目指す学生にとって、学校保健Ⅰの授業内容として、何が必要・重要であるかを吟味した上で、シラバスを作成し、授業に臨みたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育原理	1	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は概ね達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においては、全ての項目の平均点で4.0以上であり、学生の主観的な達成度も高いと考える。昨年の「大学に入って初めての授業で取り組み方が分からない」というコメントを受け、授業内でのワークや議論を増やしたため、今年度は授業外では「特にすることがなかった」という旨のコメントが見られた。来年度はこの点も考慮し、バランスをとる必要があると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士としての原理原則に関する知識教授を第一義とする講義系科目であることから、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものであると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数が少なく、比較的時間的な余裕を持って授業を進行できたが、先述した通り、授業内で取り組みすぎた感があり、再考が必要である
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。
------------------------------	----------------------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 人間関係	2	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、幸せな社会は人間関係の成否にかかっている。社会人となる学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って実践的に学んだ内容を行動化するように求めてきた。シラバスに記載したように「保育内容における人間関係は重要領域である」学生への示唆は十分に伝わったと思われる。 評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点(聞き書きの実践力)に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる) 授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが「頭だけでなく身体を通じて学ぶ」この点を強調して、学生が達成すべき目標をシラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。高い意欲を持って授業に取り組んでいた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	SNS時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間 を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善し て新たな方法を試みてみたいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学 習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。「頭でなく身体を通じての体得的理解」これをどう具体的に学生に提示 していくかさらに研鑽を積み重ねていきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 表現	1	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全受講学生の動機がそれに該当する。また、保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目である。例年に比べ受講人数が少ないため、双方向的に授業展開をする時間が長く取れ、学生のこれまでの経験や学修状況についても適宜把握が可能であった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全学生が「到達度事項評価」にて全項目4.5点以上あり、達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいてもほぼ全ての学生が学修効果を実感している様子が確認された。成績評価上も良好であり、学生の実感と近い結果であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかわる科目であると同時に具体的保育指導案を立てることや模擬保育を行うための知識および演習課題があることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	例年に比べ受講人数が少なかったことから、双方向的に授業を進める余裕があり、学生の質問や指導に充てる時間を十分にとれたと考える。授業評価アンケートにおける授業の質評価は、すべての項目において4.6点であった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、学生の状況を踏まえて検討が必要であると考え、保育科目における基礎的学習内容であるため、授業で獲得した知識をもとに保育現場を想定した演習内容となるよう、授業を進めるにあたり、より具体的な解説が必要であると考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法 I	1	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業では、保育士に求められるピアノの技術を習得する。入学時の学生のピアノ経験に個人差があるため、あらかじめアンケートを実施し、ピアノ経験年数を把握し、ひとりひとりに適した指導を心掛けた。また、学生の学習内容を確認できるよう練習課題を記入する「レッスンノート」を作成し、教員が毎回チェックすることで、適切に助言できるよう準備した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、到達度自己目標はすべての項目において4.5以上であった。また学習量では、学生が授業時間外にピアノの自主練習を行っており、技術習得に向けて自主的に取り組んだと考えられる。実技試験結果も良好であり、大半の学生は一定程度の技術レベルに到達されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であるとする。教育目標においてはピアノ奏法のレベルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行うことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP,行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ピアノレッスンは個人レッスンであり、一人ひとりのレベルに合わせて指導することができるため、丁寧な指導が可能である。到達度自己評価における目標達成の平均値はすべての項目において4.5点以上であった。また、「レッスンノート」を配布し、自分の課題を明確にすることで、練習および試験に向けた取り組みに役立つよう工夫できたと考えられる。演奏技術の獲得と学生が自ら音楽表現を楽しむことに重点をおいたことで、学習への意欲を向上させることができたと考ええる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年時のみの開講であり2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、学生の技術習得への意欲を高め、自発的な練習につながるようさらに工夫していくことを来年度の課題としたい。
------------------------------	--